



橋（井戸祖父谷にて）

古き時代の生活の知恵で受け継がれたき
木馬道も ほとんど見ることはできない
北山の象徴である木馬道の敷かれた風景
心の中で消えることはないがなぜか淋し
栈道に塗り込められた黒い油の匂いと
重い材木を積んだ籠を支えるワイヤー……
やがて使わなくなった木馬道には
苔が生え朽ちてゆく
またその情景がなんとも北山らしく
多くのハイカーを魅了したことだろ
今、この林道に立ち思出すのは
谷を渡る長い木馬道と籠の擦った
白い傷跡 そして……思い出は尽きない
立派な林道を造った鋼鉄の爪は
私の心に白い傷を残して北山を塗り替え



松尾谷の木馬道（昭和58年）

京都北山撮影紀行 ⑩

さん や しょう よう 山 野 道 遙

さん ま みち
木馬道の思い出

撮影 北川 裕久



直谷に架かる木馬橋（昭和58年）

季節の



溪谷



ササユリ



ヒメジョオン

実景

撮影 武市通治

初夏



トラノオ



ショウブ



雲母峰より鎌ヶ岳を望む（鈴鹿）

三輪 裕



宮之浦岳（屋久島）

稲垣いつを



水沢の茶畑（鈴鹿山麓）

三輪 裕



水田岳（屋久島）

稲垣いつを

●目次

表紙:松田敏男「西沢渡道にて、樹林帯」(南アルプス)

●作者プロフィール●1943年、東京都生まれ。早稲田大学卒業。
1967年より山岳新聞、山岳新聞編集長、(京都)山岳新聞、(南アルプス)編集長、(表)
京野山と野に愛しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究員

新伴作 山 関西の山
'93年5-6月初夏10号

●グラフィア	京都北山樹形紀行①「木馬道の思い出」	北川 達久	4
●随想「山のエッセイ」	武市 通治	2	
●再び金馬羅山の石柱文字について	藤原 幹雄	10	
●山岳俳句のきつかけ	吉田 信秀	10	
●シジョウ登山家・シジョウハイカー	山岸 智子	12	
●紀行 山岳部	坂井 久光	13	
●三方崩山	高野 深	15	
●(通載)日本登山紀行⑧ 鳳来寺山	松野 孝一	16	
●熊伏山	山崎 敏修	24	
●禁無山脈東部縦走	酒井 賢治	28	
●運載エッセイ・京都北山ほんまのはなし④	北川 達久	32	
●第16話花尾坂の思い出	36	36	
●第17話林道を滑って下る	36	39	
●へんてこ野郎	36	38	
●京都北山・やまぞろを痛快山行記「一九」	36	41	
●文学歴史探訪ハイイク④ 大和・葛城山から竹内峠へ	松永 恵一	46	
●コース	栗佐次敏一	46	
●①三草山	46	43	
●②伯羅子岳	46	43	
●③龍門山	46	43	
●④小笠山と御前山	46	43	
●アウトドア・ライフ入門④「木の装飾」	二名 良日	50	
●たのしい山歩き・尾瀬縦走④「尾瀬ツアー今昔」	松下 清	52	
●治塚ハイキングガイド	60	66	
●せせらぎ	64	70	
●サービステーション	64	72	
●編集後記・広告案内	72		

私達は、毎日を健康ではたらくと生きたいと願っています。山行例会に参加される皆さんと接しています。おちからで成げに明るい人が多い。又巨頭から運動やスポーツをされているのか、身体もスリムでしなやかな人が多く、年齢よりかなり若々しくお見受けします。私もつられて若い気分で毎回頭くりツアーを誘ってあげています。

「京都北山歩き」も、兵庫や大阪など、関西一円から多数の方々と御参加頂くようになりました。思わぬことで予定のコースを要買したり、下山が早すぎて時間を持てあましたりと計画通りにいかない山行もありました。

毎回、初参加の方が何人かあり、新しい出会いがあります。初めて会った人でも、一緒に歩いて、おしゃべりしているとすぐ友達になれます。山行のたのしみはそんな人々の出会いがあって、気の合った仲間であることが大きな楽しみなのです。

山は、仲間5、6人で歩くのがいちばん楽しく理想的だといわれています。足が揃い、何かあったら意見がまとまりやすいからです。新ハイキングの例会を利用して、気の合った山の仲間づくりをされては如何でしょうか。

自然を歩く仲間です。

ARTSPOOTS 25th 25周年記念OUTDOORセール

山用品のお店から現在のOD BOXまで、みなさまのおかげで創業25周年。感謝の気持ちを込めて、各フロアこよこ25周年記念プライスコナー開設。こ来店をお待ちしております。



OD BOXオリジナル OD B35twin 定価 ¥12,000
容量/35L、カラー/ブラック、インポート素材、アルミフレーム、アライメント
肩帯の幅、小荷物の収納に便利な3つのポケット付。また、ナイロンメッシュと本体の間に美しい縦縞のデザインが特徴。肩帯と背当てに厚くクッション性のあるクッションが、長時間の山行に最適。山小屋、山行に最適なアイテム。女性ハイカーにおすすり。

OD BOXオリジナル デイバック 定価 ¥9,800
容量/20L、カラー/ブラック、オリジナルグリーン、チタニウム
ポケットも使いやすいスナップバックタイプ。背負い心地は、クッション性のあるクッションバックが、長時間の山行に最適。山小屋、山行に最適なアイテム。女性ハイカーにおすすり。

OD BOXオリジナルのデザイン、カラー、素材、アライメント、アライメント

ご来店の際、新ハイキングクラブ・メンバーズカードをご提示の方には、OD BOXメンバーズ価格でご提供。

*このOD BOXには一流メーカーの登山ウェア、登山靴、ザックなどが勢揃い。皆様のご来店をお待ちしております。

自然で暮らす。衣食住。遊休CAMP。OD BOX

アウトドアライフのトータルショップ

OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ(楽しむ)生活」。自分の好きなことで自然とふれあう。「登山」の楽しさを通して、もっと自然と仲良くしたい。OD BOXはそんなハートを待つ、一年中アウトドアのお店です。

お電話でもお求めいただけます。お気軽にお問い合わせください。(054-517-0000)

- 4F テニス・トレーニングウェア/ランニング用品
- 3F 自転車・カヌー
- 2F テント・シュラフ/ザック/キャンプ用品
- 1F 登山靴・登山ウェア/アウトドアウェア/バッグ
- B1 ダイビング用品/旅行カウンター



OD BOX大阪店
〒550 大阪市中央区西心斎橋2-10-34
TEL 06(212)9688
※休日/2003年
営業時間/AM10:30~PM8:00
PM16:00~PM7:00



随想 (山のエッセイ)

いた。
噴火轟き雲湧盛る一勝岳
時折白煙を上げていた十勝岳は、一ヶ月後、噴火活動を始め、登山禁止になった。

シジョウウ登山家 シジョウウハイカー

山岸 智子

登山家とは山に登る人のことであるし、ハイカーとはハイキングをする人のことである、と私は思っていた。ところが私の友人でラーメン屋を営んでいる彼女は、胸を張ってこう言うのだ。「シジョウウ登山家やシジョウウハイカーという人もいるのよ」と。そして、私も登山家だハイカーだ、と喜んでい

そう言われてみれば確かに山行前には必ず地図を見たり、ガイドブックを読んだり、又、山行を終えて帰宅後、もう一度地図を広げて、歩いた跡を指でなぞったりすることは、陸上登山であり、陸上ハイキングである。

彼女はいつも私の山歩きの話を探ましそうに聞いていたが、「新ハイキング・関西の山の存在を知って人会、本を取り寄せていたのである。表紙、グラビアの山の写真、山のエッセイ、紀行文、コースガイド、せせらぎ欄など、この雑誌に夢中である。

ラーメン屋の彼女は、一見健康体であるが、いつもお腹に爆弾を抱えているの、と言う。爆弾とは胆石のこと、数十個も持っている、いつ腹痛が起るかわからないので、山歩きなんてとても出来ないと三つのである。

ムラサキシキブが山に自生しているの知らない彼女は、山草の名前から山用語のトラパス、やぶこぎ、高巻きなど、山用品の

アイゼン、スパッツなど、あだん聞き馴れない言葉を次々と質問してくる。
「山頂でビールで乾杯……」とか「食後にコーヒーを嗜かして……」などと書いてあると、自分も山頂に立ったかのように喜んだり、山頂でコーヒーが飲めるの？ どうやって沸かすの？ どんな味？ なんて大感激である。

会員のなかに私のような山に登らないシジョウウ登山家、シジョウウハイカーがいてもよいのでは？ と言いながら、そのうちにきつと新ハイキングのバッジをつけて、本物の山歩きをして、グラビア写真のような美しい山の風景をぜひ見てみたい、と毎日早歩きを実行している。

彼女は昨年12月に約半月間、胆石で入院したときも、ベッドで膝上登山をしていたので、退院せずにはすんだ、と話していた。
私も彼女と草花や小鳥のさえずりを楽しみながら、一緒に山歩きが出来る日を心待ちにしている。

湖北の秀峰

白倉岳

この山は本誌第5号時遊コースガイド4に紹介された「金栗岳」の東尾根上の深谷のコーンを導く位置に聳えている秀峰である。点名は深谷というが、荒野川の左側の裾野深谷からの命名であろう。

金栗岳へは昭和30年頃、京都市交通局の田中忠次氏と二人で、前夜荒野山の高山小屋に泊し、翌朝、時遊コースに出発。季節は3月と知ったと憶えている。雨前の危険があるが、又當時は急降がなかったため、尾根幹へは時遊までに登りつづかねばならなかったからである。

コースは左俣の鼻懸谷をたぐ、鳥越峠から鞍掛谷に金栗岳へ登った。途中山麓で薪が一通きび出してきたのが印象に残っている。

坂井久光

湖北

又山頂で田中氏が記念にと木の枝にタオルを結びつけてきたが、その時の積雪は1メートルあったのだから。後年登った人から高い枝にタオルがかけてあったと聞いた。下山は大朝の頭から中道尾根を下った。

当時高松屋に若い娘が3人いたので、帰京後、そのことを故今西博士に話したら、「私が登った頃はおむつの赤ちゃんだった」と語られた。

私は京都二面の四年になった頃、同級生だった小谷隆二氏から、「飯室校へ行くなら山岳部に入れ」と言われ強制的に入部させられた。当時彼は山岳部のキャプテンで、部長は「北山」丹波高屋、「樹林の山岳」等の名義がある専本大員生であった。

白倉岳を望む



当時私は、山が好きといってもマニアではなかった。山狂りとなったのは、故今西博士や御勢久郎(理研)、伊藤渡治氏(山の仲間会)長、京交O・B、小長谷氏らと共に遭遇した大峰の池の川の谷谷出合いの山岳社の火事以後である。

今西博士と知り合ってしばらくして、現十二支会会員の和崎さんや前述の伊藤氏や、柳の会の白川比佐史、高木志茂子、丁ACC会

白山周辺の山

三方崩山

さんぼうくずれやま

高雄 潔

白山

5月の連休は、子供達の部合がつかなくなったので一人で三方崩山に登ることにした。白山山系の中で主稜線から少し外れた位置にあり、一度登ってみたいと思っただけながら、なかなか登る機会が作れなかった山の一つである。

4月29日、岐阜駅前からJRバス名鉄線に乗り換え、三方崩山の登山口である平瀬温泉に向かう。登山のシーズンにまだ早いのか、このバスには登山をする乗客は私の他にいない。岐阜の町を抜けると長良川に沿って北へ走る。ひるがの高原まで来ると長良川と庄川の源流にある大日岳が左に見えてきた。

大日岳は2年前の春に、1泊2日で愉快から嶺と登った。白山から別山にかけてのま

いな稜線が良く見える、美しい山頂であった。今日も頂上には雪が白く輝いている。

しばらく庄川の流れて沿って下ると、御母衣タムの湖面が広がって来る。湖岸の右手にはダム建設で薄底に沈むのを借しんで移植された庄川の浅瀬が花を付けている。左側から行く手を眺めると、新緑を迎えた庄川の左岸にある尾根の後方に三方崩山が見える。頂上直下の崩壊した荒々しい岩肌のため白山周辺では珍しく急峻な岩壁の上で雪が真っ白に残っていて、また冬の厳しい様相を呈している。バスの中から見ると、この岩壁のため高度感がある。標高2058mの立派な山である。

平瀬温泉で降りたのは私一人だけであっ

ところが林道の終点であった。辺りはフキノトウがいつぱい出ている。

ここからいよいよ狭い山道に入る。水筒に水を入れ、登り始める。30分も登ると少し残雪が出てきた。歩く足を止めると辺りは静まり返って、まだ山は覆っているようだ。プナの木にも新芽は出ていない。

標高1300m付近辺りから見出しのきく明るい尾根が続く。残雪が森林の中で、時々バツと音を立てて落ち、枝が跳ね上がる。

谷を隔てた尾根の斜面に動くものが見えたので、目を凝らすと一頭のカミシカが雪の中を歩いているのが見えた。感涙の瞬間である。



一人で歩くとときは、山の動物に警戒心を与えないのか、よく動物に出会う。そんなことに気をよくしながら、残雪の上を見えが滑らかなように一歩一歩登る。

急斜面の崩壊した沢の上流岩壁の上で、頂上が見え出す頃、クケカンバの木があるお椀を伏せたような雪面の広がった場所に出た。はるか東には真っ白な北アルプスが見えて見える。

標高は1700m付近くらいであろうか、ここから見える上部は、尾根が細くなり雪面から顔を出している木も少ない。時間も16時を過ぎた。少々風当たりは強そうだが、見通しが良いので、風下にあたる南側に残雪を払いながら進み、平らな所を作って、今日はここでテントを張ることにした。ちょうどテントを張り始めた頃から雨が降り出した。

次の日は朝から風雨が強い上、ガスが出て視界が悪い。天候の回復を待つことにする。ラジオの天気予報は、紀伊半島の沖にある低気圧が発達し、全国的に荒れ模様だと報じている。北アルプスでは朝から吹雪になっているようだ。雨は、南よりの風に乗って、谷から吹き上げている。

南からの風には、テントを張った場所がちょうど風の死角になっていて影響はなかった

三方崩山



た。休憩所から少し道を戻り、平瀬温泉に向かつて山手に登ると「三方崩山登山口」の道標が立つ立派に出る。ここには共同浴場もある。下山後の楽しみにしておこう。この位置から頂上は見えないが、これから登る急勾配の尾根が一歩出来る。

植林された杉の林の中、林道の西側にはカタクリの花が春の寒気を漂わせている。しばらくは山に向かう林道を登る。斜面でゴソゴソ音がするので、動物がいるのかと緊張するが、地元の人が斜面でタラの芽を探っていた。挨拶をして通り過ぎる。30分ほど登った

地域に合った品揃えを目指しています。

三重県唯一のプロショップ

登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。

登山・スキー・アウトドア

GRINDELWALD
グリンデルワルト

営業時間 AM10:30~PM 8:00 毎週月曜日定休

三重県四日市市諏訪町13-3 TEL. 0593-54-0627



三方別山

が、午後になり北よりの風に変わると、雨が雪になり、屋根を越えてくる風の一部が、まともにテントを叩き始めた。もう少し低い所にテントを張っておけばよかった、と思ったが後のまづり、冬に逆戻りだ。

風と、飛んでくる雪のために、テントは斜めになり半分埋まってしまった。午後になっても回復の見込みがないので今日はここで沈殿と決めた。夜は風がテントを叩く音と、テントが倒れないように中から押さえていたので、朝方までよく眠れなかった。

5月1日の朝、まだ風とガスは残っていたが雪はやんだ。雪はこの辺りで相替りほど新たに積もった。テントの中は昨日からの風で、こちゃこちゃになってしまった。取りあえず荷物を仕付けて出発の準備を終えた。昨日は一日中動かなかったため、朝食は食べずに頂上まで登ることにした。荷物をこの場所にテ

ボして出発。

グラストした雪の上に新雪が積もり、歩きにくい。斜面では一歩足を踏み出すと、新たに積もった雪が滑って谷に落ちてゆく。ここから頂上までのルートは凍せた屋根になる。雪軍に屋根上のルートを取る。吹き溜まりでは、腰を越える程の雪がある。雪の付いた岩が露出している急斜面を登ると、傾斜は緩くなり雪も急に深くなって膝を越えた。

この付近では最も高そうな場所に着く。まだたつぷりと雪がある。頂上のようなので近くにあるダケカンパの皮に赤布を付け、次に来たときの目印にする。昨日の風雪で辺りの霧氷がきれいだ。しばらく休み、朝の食事にビスケットを食べる。

天気は回復に向かっているようで、ガスの切れ目に奥三方岳の広い北側面が見えた。ここが三角点のある頂上のようなだ。

奥三方岳はここより標高が約90m高いので、時間があれば足を延ばしたいと思っていたが、雪が深くその上一日雪崩したので今回はここまでにした。次の機会には奥三方岳まで行きたい。

下りになると天気がしだいに回復しているせいか気分も明るい。急遽に変化する天候の中で、ガスの切れ目に見える折り返した山

並みを登っていく裏の、ゆったりした動きを眺めていると、時のたつのも忘れそうだ。

雪、荷物をデポした所に戻る。標高1000m付近の屋根から少し氷に入ったところで再びカモンシカに出会った。今度はあまりに距離が近いのでびびり出した。50mほど離れた木の間から不思議そうな顔をしてこちらを見ている。しばらく足を止めてお互いに相手を観察していたが、カモンシカは悠々と去っていった。

林道に出たところでひと休み、フキを土産に摘む。平瀬で楽しみにしていた温泉に入り登山を終る。

平成4年4月29日～5月1日歩く

▲参考タイム▼

4月29日 1R野洲駅7・18→Rバス名金線成良経由→三瀬温泉13・30→1700m付近16・15(テント泊)

4月30日 啓発(5月1日) テント場5・30 頂上6・40→1700mテント場7・30 平瀬温泉11・15(地形図) 2万5千→平瀬・新井間温泉

昭文社「143白山」

連載

日本霊山紀行 8

鳳来寺山

鳳来寺山は、三河の山中にあり、仏法僧の生草場として有名である。仏法僧とはコノハスクの別称であり、初夏、この鳥の鳴き声を聞くために、山中に1泊する人が多いという。鳳来寺山は、700年に満たない低山であるが、金山岩に覆われていて、登山道はとも隙しい。高ノ尾山から司馬を通り、鳳来寺山頂を経て棚山高原、仏殿峠へ至るコースは、東海自然歩道に指定されているが、なかなかの難コースである。

日本山岳志は、「鳳来寺山(別称徳義山、桐生山)三河國岡豊郡ノ北東ニテアリ、鳳来寺村大字内宮ヨリ凡十九町ニシテ其山頂ニ達ス、麓西二千五百十八尺」と記している。鳳来寺山へは、豊橋から飯田線に乗り本長

684・2頁

浅野孝一

篠原で下車、豊橋電鉄のバスで岡谷にある鳳来寺山バス停まで乗る。

古い町並みの続く門前町を歩くと、左手前方に鳳来寺山自然科学博物館、更に進むと遊歩のまに松尾高松の句碑(こがらしに岩吹きとがる旅籠かな「妻若ひとつ折出して旅籠かな」がある。

なおも行くと、参道は1400段近くもある石段となる。山門をくぐり、屋敷お暗い石段を登っていくと、障子窓の間に取り覗きられた寺塔の跡が断々と残っている。3分の1ほど登ったあたりの右手に、高松院があり境内に休み茶屋がある。ここを通過すると、石段は一段と急になり、南方の懸崖が広がってくと、ほどなく鳳来寺本堂前の広場に出る。

鳳来寺山への石段を登る



『岡豊郡誌』によると、「極高山鳳来寺大寶三受引文武天皇の勅諭に據て、始め堂宇を創建した。中略。文治年中源頼朝、堂宇坊舎等を新建し、併せて莊園若干を寄附した。中略。萬治三庚子年失印史改鳳来寺領八百三石二斗二升五合、東照宮領五百四十六石七升五合、計千二百九十九石となる」と記している。また由來記には、行者利修が入山、仏行を積んだと伝えている。



田原の踏み切を越えると三河大野駅に着く。風来寺山の東、JR飯田線沿いに宇津川が流れ、赤湯温泉、湯治温泉がある。湯治温泉の源泉は万病に効くと、1200年前から親しまれている。泉質はカルシウム、ナトリウム塩化物、泉温は52度と高い。赤湯温泉は弘法湯ともいわれ、ラジウム泉である。これらの温泉に一治して、風来寺山に登るのも山旅の楽しみだろう。その他に、飯田線沿線の長篠城跡を訪れるのもよいだろう。

かつて、木長線から風来寺の門谷を経て三河田口まで、22・6キロを田口鉄道が走っていた。昭和二年(1927)に創設、全線が開通したのは昭和七年(1932)であった。いつ廃止されたのか、今はバスがこの間風来寺入口まで通っている。当時、どのような車輛で運行していたか知る山もないが、ゆっくり山の中を走る列車には、さすがに風情があったものと思われる。

バスの車窓から見ると、所々にそれらしい小さな広場がある。もしやでも、この鉄道が営業していたなら、列車は大勢の参詣客で賑わっていたに違いない。

東京本社
『新ハイキング』
(月刊)
昭和25年創刊で、以来40年余全国のハイキングファンに親しまれています。

入会金 500円
年会費 5400円

新ハイキング社
(振替口座 東京3-146915)

本堂から更に行段を登り、掌の橋手から左上に梯子を登る。急坂が終わると、右へ木立らの間の道を進むと、不動堂に出る。ここには小さな池がある。



山頂北端からの展望(北方)

再び杉木立ちの間を通り、六本杉のかたわらにある梯子を登ると、奥の院(行基堂)に出る。背後の岩の上からは西南方の展望が広がっている。

ここから尾根道を進ると、風来寺山山頂に

逆する。山頂には巖岩があり、三角点が建てられている。展望はあまり良くないが、山頂から北へ少しの岩壁の上から眺めると良い。山頂から西の方向に天狗岩、鷹打湯展望台への道が分岐している。

橋路は往路を信託に下って、風来寺本堂へ戻る。本堂から右手に歩くと、東照宮に出る。この東照宮は、慶安元年(1648)4月、三代将軍家光が御祭を命じ、慶安四年(1651)9月、四代将軍家綱の時に完成したもので、日光、久能山とともに三重塔宮と呼ばれている。東照宮から車道を少し歩き、左上の東海自然歩道に入る。ゆるい登りから急な下りとなり、行者地に着く。昔、行者知りと呼ばれていた所で、後の行者もここまで登って、山の険しさに驚いて下山したと伝えられている。石碑や灯籠がある。

自然歩道は、風来寺山パークウェイを二度横切り、村の間の道を下って湯谷峠へ出る。峠には青むした江戸期の石橋があり、左は湯谷温泉へ、右は三河大野へ下る。

三河大野への下りは、道幅は広いが小石が多く歩きにくい。坂はだんだんゆるくなって、ベンチのあるところに出る。この先は未舗装の車道で、右手に茶畑が現われ、沢が近づいてくると、引地の露落である。泉道を右へ坂

●山の本紹介
海を眺める志摩の山 24山
価格 1200円

飯高・美杉・松阪の山 23山
価格 1800円

- 知られない三重南部の山が多い
- 自費出版

〒516 伊勢市北久留 2-1-14
福井正身
TEL 0596(25)0076
(簡易小冊子でご送金下さい、送料不要)

●山の本紹介
続・ぎふ百山
B5・215頁 4500円

■ 美濃・飛騨の山を130山紹介する

岐阜市今小町9
岐阜新聞社
TEL 0582(64)1151

野外塾

●木の葉餅

関西アウトドアスクール
校長 二名良日



樺前線の北上を迫りかけるように、新緑の柔節が、日本列島を覆いつくします。生きとし生けるもの総ての生命が蘇り、瑞々しくも成長を遂げる春から初夏にかけては、桃の節句・端午の節句……と、自然をバックにした生活文化の歳時も、いろいろと多彩です。

サクラ餅のイメージと重なる「樺煎」や、カシワ餅やナマキを食べる「ツバキ餅の日」などになんて、山行中によく見かける、草木の葉っぱに注目し、健康によい自然食でもあり、携帯に便利な保存食である「木の葉餅」を中心に、血や疲労としての葉っぱの利用や、その背景となる「餅の文化」などについても調べてみましょう。

サクラ
サクラ餅として、最も親しまれている素材ですが、サクラという和名はなく、総称です。お花見のソメイヨシノは、エドヒガンとオオシマザクラの交配種です。

市販されているサクラ餅の皮は、早咲きのオオシマザクラの栽培若木から採取したものを塩漬け保存したものがほとんどです。

その産地も、静岡県松崎町が全国の50パーセントを占め、470軒もの栽培農家があるそうですが、最近では人件費の高騰で中国の

気候の合う地方に種を移植しての、輸入ものが増えてきているようです。

しかし、その最高級品は、やはり天然の自然物です。塩漬品を比べて見ても、葉の光沢やコシの強さ（厚みと反発力）は圧倒的で、改めて自然のパワーに驚かされます。

民間薬として、ヤマザクラの皮は、キノコや魚による食中毒やジンマシンを防ぐといわれていますが、サクラの葉とその香りに、殺菌力・保存力があります。

同じサクラ餅でも、関西は米粉練りのダンゴ餅で、関西は通明寺という厄守を元祖とする干飯煎おはぎ、と大きな違いがあります。

ツバキ
サクラ餅のルーツをたどってゆくと「ツバキ」といわれていた「ツバキ餅」にゆきつつくそうです。

このツバキもまた機能的で、養育用薬草種が数多いのですが、山野に自生するものはヤブツバキでしょう。照葉樹の代表格で、葉がぶ厚く滑らかなので、ネバツバキ餅の皮には最適です。

同じツバキ科のチャの葉が、多量のタンニンを含み、消炎・制菌があるように、ツバキの葉にも止血作用があり、少しの切り傷ぐらゐなら、この葉を噛むと止る？という記述も

見られます。

カシワ
サクラ餅と双璧をなすのがカシワ餅です。餅ガシワの呼び名もあり、フナ科のドンギリの仲間でも、葉が30センチにもなる大きなカシワで、厚く、手強いので、餅の皮や食卓に古くから利用されてきました。近似種の少し違うナラガシワも同様で、葉柄の根元いっばいまで葉が広がっているのが特徴です。

サルトリイバラ
四国などでは、カシワが少ないのか、カシワ餅？の皮にサルトリイバラの心円形の葉を使う地方も多いようです。

本巻り上手のサルが引っぱかるほどに、木にからみつく、生薬力の旺盛なこのツルは、中国名を山藤米といい、樺海で村を追われた唐人が、この根を食して治り、里に帰った……という俗説があるほどです。

若葉を使いすぎると、くっついてハゲレないで注意しましょう。

アカメガシワ
カシワと名前が付きませんが、フングリの仲間とは違いうつクサ科の落葉樹で、春に赤い芽が目立ちます。

葉は茶葉・工業茶葉と呼ばれるように、この葉も昔から、食物の着色料として知られ、特に



アカメガシワの葉血に盛られた「人形寿司」

神前の供物用に使われました。

また包み茶のほかに、腫れをひかす民間薬としても使われたようです。

ナマキザサ
越後を中心に分布する、葉が広く、裏に毛のあるこのナマキは、ナマキやササギ餅に広く用いられています。

ササ・タケの仲間には、ビタミンKが豊富で高單位のクロロフィルを含み、漢方では中風・高血圧によいと信じられ、一般的にも、健康茶や魚・畜物の防腐などに使われます。実際にイグサ巻きのナマキは、固くならず長持ちするところ好評です。

カキ

カキの葉餅用で有名なカキ製には、ビタミンCがたっぷり含まれ、高血圧や虫さされ・打ち身・やけど・しもやけ……などに効くといわれ、お茶にしてよく飲まれています。防腐作用があるのか、サバ・マス・アユなどの魚寿司の包装にも多量用いられています。

この他、ハラン・フキ・ホウネキ・ヤブツバ・イイギリ・イチジク・ヤマアブドウ・クス・カンナ・バシヨウ・ハス・クロイモ・サトイモ・ゴボウ・パンノキ・パイヤ・ヤシ・ピロウ・キンマ……等々の葉が血や保存包材材に利用されている例もチェックし、植物の個性を知りましょう。

また、これらの葉っぱが、餅や餅米を包んだり巻いたりする点に注目し追跡してみると、日本維新と想い込んできたモチ・ナマキ・ウイロウ・オコワ、コウジ・茶・コンニャク・モヤシ、木地・ウルシ、絹・紙、川漆・鶏糞……等々が、実は海を向こうの東アジアの輸作起源地域の「船葉植物帯」のそれにピッタリ符合することに驚かされ、感動します。

起死回生の

霞沢岳

かすみ さわ だけ

松田敏男

北アルプス

5月の連休には、大阪や京都から上高地行きの直通バスが出ている。鉄道などを乗り継いで行くより、安い運賃で、乗り換えなしで行けるので、スケジュールを早く決めて、予約しておくのが賢明だ。往復キップを買って、別荘になるだけでなく、帰りの便も保障されて、この国民大移動の日程に安心して進める。

天気予報の目通しは、あいにく雨模様である。連休初日の5月3日はまだよいが、夜からくすんで、その後は雨がちと多い概況だった。今回は、天気のこととはさておき、霞沢岳ひとつで4日間も使うことはないので、徳本峠付近にテントを張って、余った日は大滝山への後線を徹夜気分、のんびり歩こうかという計画だった。

京都駅を夜の11時頃に出発して、朝6時に上高地に着いた。バスの中は案外足元がゆったりしていて、車内照明も暗くなるから、あまり眠れはしなかったものの、十分体を休めることができた。20年ぶりの上高地。以前夏の過酷した時期に、案内所のコースタイムの約半分の時間で一度通過しただけだった。しかし今日はいい。人が多しとは言え、また早朝、自然に溶け込むような人たちはかりだ。梓川が幅広くゆったりと、そして音もなく流れ、見上げる標高は、白い雪を朝日に輝かせている。萌えたつ木々の浅い緑は、華やかにさざめいている。雪も言われぬ美しさだ。ゴミがなくて、想像していたより劣化されていなかったのも良かった。



霞沢岳のP1を見上げる

川べりで朝食を済ませて、河童橋を見送り、しばらく行くと、なんとカモシカが立ちどまっているではないか。梓川のあたりへ食べ物を求めて出てきたのはいいが、六巨山に帰ろうとして人に見つかったのだらう。十数人の人たちに囲まれて、もう動かせないといふ姿だった。

その時はまたよく晴れていたが、週間予報によるともう今日しか好天はないということ

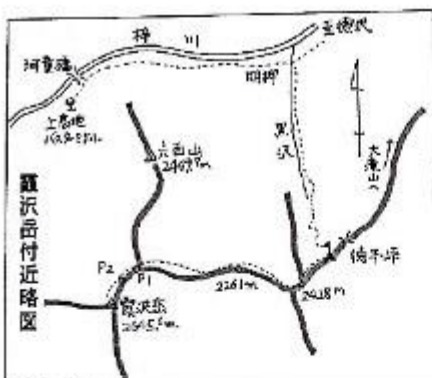
神岳は、さほど大木を突き、その左に大木、井岳から常念岳までが、ゆるやかなカーブを描いて並んでいた。その上の方にだけ標高でもあるかのような雪のつき方は、写真で見るとルウエーのフィヨルドの山に似ていた。

どが頂上から分らないオオシラビソの樹林の丸い山の上に出ると、南面が開け、南アルプス、中央アルプス、御所、飛騨岳が見え出した。飛騨岳が大きなポリアリウムで迫り、山塊がこちらから続いているように見えた。やはり美輪岳も北アルプスの一員なのだ。納得できた。飛騨岳も標高の季節を外して登れば、きっと大好きな山のひとつになることだろう。

丸い山頂を過ぎて15分ほど降り、また登り返して、3〜4の小さなコブを過ぎる頃になると、夜行疲れの体では思うようにピッチが上がらず、夕方6時にテント場へ帰れるかどうかとも察わしくなり、またテントを厚い雪で覆われてきたので、テント引きを中止することにした。夜には、雨が降り出し、次の朝起きて、降り続いていた。テントもまた良しとするか。忙しく動いている日常を思うと、これはありがたいことだ。三人用テントに大山さんと二人で、もうただ横になっただけの。時々シニラフから出て、三度の食事をして、用を足

なので、急いだ。本日に御所岳に登るのだ。徳本峠への道に入ると、急に人波が途絶えて静かになった。林道が尽きて、山道になる。あたり全面、残雪の風景に変わってきた。次第に傾斜が急になってきた。途中でスパッツをつけ、ジグザグの道を登りつめる。仰への道が左へ大きく曲がる所で、そのまま谷をつめて行き、麓に出た。

まだ10時。テントを張って、霞沢岳をめざす。意外にも暗れたままだ。この日をのがしてはならない。木々の間より見る前照燈と明



登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5768
FAX (075) 231-0318

山とスキーの専門店

京都 ムラカミ

新ハイキング選書



霞沢岳より徳高連峰を望む

明日が連休最終日だ。予報によれば、徐々に回復の見込みという事だ。予約のバスは午前11時30分に上高地を出る。さて、どうしようか。霞沢岳往復に7時間はかかる。上高地まで下るのに少なくとも2時間は必要だろう。とても11時30分には間に合いそうもない。リーグーの大山さんは決断した。天気が回復すれば、予約のバスをキャンセルしてでも、

感じられた。

頂上をさわめよう。

その夜7時に寝る頃は、雨りの山が少し見えてきた程度で、まだまだ雲の中だった。しかし寝つかれないまま2時目が過ぎる頃、強い風が吹き始め、テントの中まで明るくなってきた。テントから顔を出すと雨がこうこうと降り注いでいるではないか。快晴だ。太いブナの幹の周りの雪面が、大きい穴を開けて、月の光りに照らされ輝いている。その白い雪肌のやわらかなカーブの美しさは、たとえようもなく妖艶だ。ブナの太い幹は、夜露に濡れて、くっつきりと陸やかに、斑紋を浮かび上がらせている。遠くには白い樹高が見え、その下には明輝の宿の光がきらめいていた。翌朝、快晴。逆光に見上げる青空は、雪山の時期特有の黒っぽいグレー色だ。快調に歩を進めた。もうバスのキャンセルに迷いはない。ヒークを思えようものをついで、本当の頂上に立った。巻道は足元にうずくまり、その上方、はるかかなたに白山が白く長く見えている。もちろん絶景は絶景に美しい。30分程休んで、往路を引き返した。最終日まで待ったおかげで、一気に満足できた。特急「しなの」と新幹線を利用したので、その日のうちに帰ることができた。まさに起死回生の観のある、ドラマチックな展開だった。

新ハイキング関西の山の表紙を飾る

松田敏男 画集

彩画山影

南・北アルプス、八ヶ岳等
A4判・164頁 オールカラー
定価 4800円

ふたば書房

京都市上京区船場今出川下ル(〒602)
TEL.075-432-4181 FAX.075-441-1770

ただけに、強く印象に残る山行となった。

(平成2年5月3日〜6日)

△コースタイム▽

(3月3日) 上高地(3時間5分) 徳本峠西
南方向鞍部テント設置地(4時間30分) 霞沢
岳とのほぼ中間地点 標高2320mの小ビ
ークまで往復(5月4〜5日) 標高
(5月6日) テント設置場(3時間15分)
霞沢岳(3時間) テント設置地(2時間10分)
上高地

△地形図▽ 2万5千〜1万高地

昭文社「6乗鞍巻」

【第6巻】再版出来！ 松本雪枝 著

花の山を行く

★好評発売中！

【第8巻】 富田弘平 著

旅がらすの山

★三版発売中！

【第9巻】安藤正徳／市川幹子／多摩吉雄／富田弘平／松本浩共著

一等三角点の名山100

【第10巻】 沢 聰 著 画と文

四季の山

★最新刊・好評発売中！

【第11巻】 大石真人 著

いで湯浴泉記

★最新刊・好評発売中！

【第12巻】 後藤典重 編著

東海自然歩道を歩く

★最新刊・好評発売中！

【第13巻】 小林経雄 著

甲斐の山山

★最新刊・好評発売中！

【第14巻】 富田弘平 著

百歳までの山登り

●振替でのご注文は 発行所 新ハイキング社 振替東京0-14013
送料当社負担 東京都北区滝野川7-6-13 電話(03)3915-6113

豊かな樹林の山歩き

熊伏山

梅雨の高登りの一日、車が通れない幻の国道152号線(秋葉街道)の昔ながらの峠を越え、1等三角点の南信濃・熊伏山(1653m)に登る。

熊伏山は長野県下伊那郡天竜村と南信濃村の境に位置し、小嵐川と遠山川にはさまれた山で、南北に尾根が長く延びている。東側の小嵐川側は閉鎖的が露出するガレ地となっており、小嵐川沿いの秋葉街道を通る人々が、このガレ地を見て熊も近寄れない谷というところを熊伏谷と呼び、この谷の源頭の山を熊伏山と呼ぶようになったと伝えられるが、一説には大きな山容がまるで熊が伏せた様な感じであることからとも言われている。以前は熊が多く生息していたと思われる山名である。

山崎修

南信

昨今は、どこへ行くにも利便性優先で車を利用する事が多く、特に交通の便が悪い山へは車での計画は考えられず、今回も東名高速秋田インターから浜北市・天竜市を通り天竜川沿いの国道152号線を一路北上して水窪町池馬へ。浜松インターから1時間半ほどであった。(交通機関を利用なら、JR飯田線の水窪駅からタクシーを利用)

本来なら足利神社を越えて菅原峠まで車で入る予定であったが、トンネル工事のために池馬で通行止めになっており、仕方なく車を置いて国道を歩き始める。このように機会でもない車を捨てて国道を歩くことにはないが、自分の足で歩けば、それなりの楽しさがあり、道路脇のクマイナゴとモミジイナゴの味を染

地蔵峠付近から見た熊伏山



しみ、小嵐のさえずりも聞くとはなしに耳にうつて来る。

しばらく歩くと、三河・遠州・南信濃自動車道の草木トンネル工事現場に出る。トンネルの開口部は完成して奥へかなり延びており、入り口から見る限り完成近じと思われた。トンネルで長野県へ出られる日もそう遠くなさそうである。昔ながらの山歩きにゆえに昔のままの峠の姿を残しそうである。

トンネル工事も週休二日となつてはいるのか人の姿は全く見られず、トンネル内には所々に照明灯もあつたので野次風気分が少し入つて見るが、無人のトンネルは何となく不気味な感じなので、すぐ戻る。

工事現場から先は舗装された林道といった感じとなり、旅人の足を守つたといわれる全国で唯一の見神神社へ向かう。七百年ほど前に、この地を通りかかった鎌倉の北条時頼の足指を治療した池島の庄屋、五代目守屋辰次郎を祀る社で、時頼の命で彼の死後、足指神社として祀つたと伝えられる。秋葉街道を歩くと多くの旅人が峠を越える前後に参拝した様

子がしのばれる。神社境内には「足指跡水」があり、ノドを潤す。

早太郎の碑(信州赤穂の勇夫 早太郎)が、清州見付に出発の機、八年とつた後、清州を退治して、信州へ戻る途中、この地でその闘いの傷がもとで亡くなったとの言い伝え、木匠師の墓を見ながら進むと「塚の遺」の入り口となる。遠州の庵を信州へ運んだ遺が石畳の道に還元されていた。この塚の道に入る。途中には「信玄の願掛け石」なる石碑とも思えるようなしつらえもあり、塚の道から山道へ坂けると車が通れない国道152号線の昔ながらの峠に出る。

信濃側はその名の通りに青ガレですつぱりと切れており、崖壁は信州側の標高1400mほどまで及んでいる。

「今日の足跡は明日にはない」と言われるほどの崩壊地で、古い記録によると正徳五年(1715)、享保三年(1718)、天明七年(1787)などに大崩壊があつたとされている。昭和に入つてからも崩壊が続き、昭和四十年には崩壊地の拡大による家屋の消失が記録されている。

ただ、最近では崩壊地は砂防ダム等での防災工事が進み、一部ではあるが草木の芽吹きや成長があり、10年ほど前に登つた時の青ガ

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 北アルプス総図 | 34 飯倉山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・出羽三山 |
| 3 鹿島越・黒岳 | 36 奥山 |
| 4 磐立山 | 37 富士(新編) |
| 5 上高地・樺・穂高 | 38 栗駒・早知峠 |
| 6 黒部五湖 | 39 八幡平(新編) |
| 7 御前山 | 40 十和田湖(新編) |
| 8 中央・南アルプス総図 | 41 二七〇・羊蹄山 |
| 9 木曽駒・空木岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒・北岳 | 43 白川 |
| 11 塩尻・赤石・聖岳 | 44 霧ヶ峰・伊吹・諏訪 |
| 12 妙高・戸隠 | 45 霧ヶ峰・霧ヶ岳 |
| 13 志賀高原・草津 | 46 比良山系 |
| 14 野沢池・浅間 | 47 京釜北山1 |
| 15 越上州・妙義 | 48 京釜北山2 |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰 | 49 京釜西山 |
| 17 ハコ越 碓氷 | 50 北穂の山々 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 八甲・奥野・青島 |
| 19 碓氷 | 52 碓氷高原・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 笠間川・岩手山 |
| 21 月天 | 54 紀伊高原 |
| 22 高尾・陣馬 | 55 奥多摩 |
| 23 大菩薩温泉 | 56 大峰山脈 |
| 24 奥多摩 | 57 大台ヶ原・大台ヶ原山 |
| 25 奥多摩・伊豆 | 58 赤目・奥多摩高原 |
| 26 奥多摩1(奥多摩・奥多摩) | 59 水ノ山山脈 |
| 27 奥多摩2(奥多摩・奥多摩) | 60 大山・野山高原 |
| 28 谷川岳・奥多摩山 | 61 四国山 |
| 29 碓氷三山(碓氷山) | 62 石室山 |
| 30 奥多摩 | 63 信濃の山々 |
| 31 日光(奥多摩・日光) | 64 九重・阿蘇 |
| 32 碓氷・碓氷 | 65 信濃・碓氷 |
| 33 碓氷・碓氷・碓氷 | 66 奥多摩山脈 |

昭文社の「山と高原地図」は年毎として毎年巻物発行されます。この山の図はなるべく最新技術を使用させていただきますようお願いいたします。
*紙と表紙の「山と高原地図」へのご賛同・ご意見がございましたら、本社編集課(山と高原地図)担当までお電話にお電話ください。また新情報をお知らせいたします。

昭文社

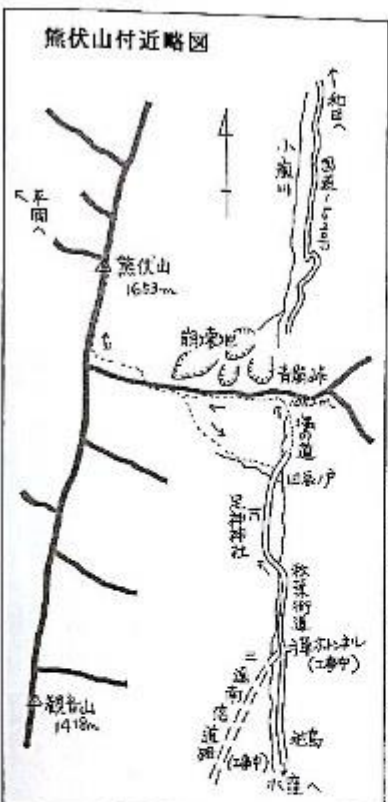
本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪府深川区西中橋5-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・山形・名古屋・金沢・京都・広島・福岡

レンの荒々しい印象とは違つて、何となくガレが優しくなつてゐる感じがした。

しかし、ガレは以前のままで、見る側の人間の色が年を経る若き「荒々しさ」をなくして、網膜に映る景色が優しくなつたのかと、少々愛なことを考へる。

熊伏山に向かつて鳥居階段を進む。信州側は崩壊しており、山道は遊州側のマナ・クヌギ・カエデ等の自然林の中にはつきりと付いており、気持ちの良い区間歩きが楽しめる。

特にカエデが多く、ミツデカエデ、コミネカエデ、オオイタヤメノグツ、イタヤカエデ、エンコウカエデ、ウリハダカエデ、ヒナウチ



ワカエデ、ヒトツバカエデ、チドリノキ、オオモミシの10種類が確認出来た。

又、この辺りにはヤマボウシも多く、5~6月頃には白い花を垂れまきまきでくれ、秋には赤くなり、この熟れた赤い果実が美味しくて秋山の楽しみのひとつになる。

崩壊地を過ぎた付近からヒメシヤラの赤褐色の美しい樹皮が目につくようになる。花は7月頃で白いツバキに似たひと車の可愛な花を見せてくれる。

観音山への分岐点を過ぎて信州側に入り、方向を北に変え、小さなピークを二つ越えて頂上近くになると、ツルシキミの自然林とレ

ングシヨウマの群落が見られたが、レンゲシヨウマはまだ小さな蕾で、花の時期には少し早く残念であった。

この付近にはモミ・ツガ等も見られ、深山の雰囲気味わいながら登り切ると、一等三角点の熊伏山であった。山頂には「COバルブ工業所有地」との看板があり、いずれば時からこの自然林も切られツツ材になるのかと思われ、嫌な気になった。

あいにくの曇り空で山頂からの展望は良くなかったが、暗れていれば東から北にかけての眺望が良く、南アルプス南側の山々、連山谷を隔てた先には地蔵峠・鬼面山から南の山々が望め、天谷村から登ってくる登山者を少し下ると熊伏山と中央アルプスも望める。

下りは、公共の交通機関を利用するのなら、山頂から天竜村平岡への長い道を下るコースがあるが、最近では利用する人は少なく売れているようである。今一つは、買断峠から南側標和田へ下るコースだが、こちらも長い車道歩きが待っている。

今回は車で来ているので、登つて来た道を観音山分岐点先まで下り、そこからは別ルートで戻すの標和田へ出るコースを平る。観音山への分岐点から少し降りた所に、少々判りにくい右手から山頂が登つて来ている。

観音山への分岐点を過ぎれば注意する必要があり、道の一部は不明瞭な所もある。山なれない人は来た道を買断峠経由で戻る方が無難である。

ガラガラの一、九折れの道がしばらく続き、少し平坦な場所に出る。ここで何気なく下を見ると枯木にヒラタケが沢山ついている。山の幸には目がないので、斜面を下りてヒラタケを手で切れないほど取つてザックに入れる。水を吸ったヒラタケは意外と重くザックが重たに感じ込む。



足神神社

道は下るほどに不明瞭になり、熊相も自然林から杉の植林帯となる。小さな沢を二つほど渡ると、朝歩いた車道まであと少しであるが、最後の所で道はイバラ藪じりの藪におおわれ、藪を切いで車道に出る。足神神社から少し上の標和田となった旧辰之戸の集落跡である。廃村となつて20年余り、時の流れに集落があった所はすべて木々に埋もれており、人々が生活を営んでいた痕跡は、古い地形図に残っているだけであった。

買断峠から熊伏山までは人の笑いを感ぜさせる山道であったが、下山したコースは人の臭いが消えかかつており、山道が自然に埋もれるのもそう遠くないように感じられた。

今日の山を心の中で反芻しながら車道をノンビリと歩き、車庫所に戻る。

この日山に付いたその他の樹木としてはトチノキ、チチアドウダン、シロヤシオ、コハクボク、タンナサワフタギ、ミスギ、ヤブアマリ、ベニバナツクバネウツギ、ヤブウツギ、マルバウツギ、コガクウツギ、ハナイカダ、ヤマウツギ、マクタブ、ヤマナシ、カマツカ、カツラ、コナシサイ、ヤマアジサイ、ダンコウバイ、クロモジ、アブラタヤシ、ミズナラ、ヒメパラモミ、ニワトコ等があった。そして、菌類としては採取したヒラタケの他

に、ウスタケ、オオホウライタケ、ツガサルノコシカケ、クヌギタケ、ニカワハリタケ等が見られた。

この地域の山々には樹林を含め、まだまだ豊かな自然が残っているが、林道が奥へ奥へと延びて、自然林を伐採してスギ、ヒノキの人工林に置きかえられつつある。

秋は広葉樹の紅葉が美しく、新雪の南アルプスも遠く、違った山歩きが出来ると思う。そして、菌類と木の実も楽しめる山である。

(平成4年8月28日歩く)

- △コースタイム▽池島(40分) 足神神社(50分) 買断峠(1時間40分) 熊伏山(2時間)
- 足神神社(30分) 池島
- △地形図▽2万5千1:水窪湖・伊那和田
- △問い合わせ▽
- 水窪町役場 05539(8) 1111
- 水窪タクシー 05539(8) 0118



熊野三千峰と奥高野の山々を望む

果無山脈東部縦走(ヲナの平・右地力山)

奥高野

酒井賢治

紀伊半島南部にあつて、東西にわたり奈良
県と和歌山県を分ける長大な山脈、奥無山脈
標高わずか1000m前後の山の連なりであ
るが、実際に十津川の行仙居あたりからこの
果てしなく続く山並みを見た時、なるほど奥
無とはよくぞ名付けたものだ、と感服する。

果無という山名を知つてもう随分長くなる
が、私にとって果無は余りにも遠くて不便な
山、登ろう登らうと思ひながら結局今まで登
頂の果たせ無かつた山域だつた。しかし一度
は登らなければならぬ山、全山縦走が無理
であれば、せめて入山しやすい果無東部だけ
でも、と昨春ようやく足を踏み入れた。

5月21日(木) 23時5分天王寺発の新宮行
き快速電車にのる。六橋編成で前二輛が新宮

行き、後ろ三輛は紀伊白辺止まりだ。車内は
50%程度の乗客でほとんどが釣り客。午前1
時前後を過ぎたあたりからウトウトする。白
浜は知らぬ間に通過、串本でほとんど客が
下車、私を含めて3、4人となる。熊の町太
地町で夜が白み始め、紀伊伊勢浦で晴天の水平
線をみる。午前5時すぎ定刻通り新宮駅に到
着。駅の立ち喰いそばと持参のおにぎりです
り朝食をすませ、駅前のベンチで1時間はか
り仮眠する。

6時15分発奈良交通バス・大和八木行きに
乗車。客は2人のみ、新宮の町を出ると熊野
川に沿つた国道168号を北へ走る。右に朝
の光をうけた子ノ泊山が美しい。途中から中
学生や地元の通勤者が乗車、バスは熊野の山

袂に入る。田湯温泉、湯の峠温泉を經由し熊
野本宮大社を通過、7時40分頃山への取り付
き点、熊野松バス停に着いた。

立ち話をしていた地元の人にコースの概略
をきく。バス停より少し歩いて左の石段を登
り山道に取り付く。

右下に民家の屋根をみて登ると、すぐ杉林
の中の道となり、まもなく右に分岐した道を
ゆく。まっすぐ行けば松茸山への道ときいた。
急坂を登ると394mのピークの東側山腹に
からむ小道となり、右下に熊野山の麓行をみ
る。ちょうど田植の時期らしく、耕起機の
音が聞こえてくる。このあたりやたらとトウ
の立つたワラビやシダの植物が多い。394
mのピークを左に廻りこむころ、右に八木尾谷
を隔ててこれから登る果無東部の大きい山腹
をみる。やがて394mのピークと百前森山
から延びた尾根との鞍部につく。右下には八
木尾からの道、394mからも踏み跡道が下
つているので逆コースをとる場合注意が必要。
和歌山県林業公社のポールが建てられて
いた。

ここからは、まず百前森山を自指して急な
山道を登る。やがて滝穴や馬酔木の低木が多
い明るい尾根道となり、気分が和む。次第に
左から後ろの展望が開け、近くに394mの

ピークや中下番の集落を見下ろし、遠く熊野
三千峰といわれる山並みが幾重にも続いている。
地図を片手にひと休みし大塔山、法師山、
野宮法隆、コンニャク山など初めてみる山々
を確認する。

地図上の686mは知らぬ間に通過、尾根
の左斜面に沿つた道をトラパスぎみに進む
と、やがて左下に中下番からの道が合わり、少
なおも進むと再び中下番からの道があり、少
し歩いて燗間の小さな広場についた。「新宮山
びこさ」の道標が立ち、右の木の根まじりの
尾根道は百前森山へ、左の燗間の明瞭な道は
百前森山の西側山腹をまくトラパス道を指
している。案内書に百前森山は展望無しとあ
つたので左のまき道をゆく。樹林帯の奥深さ
を感じる節取そのもののまき道で、大峰の奥
山道を歩いているようだ。緩やかに山腹をト
ラパスしてゆくと、やがて右に百前森山か
らの下山道が合われ、幅広い尾根を登るよう
になる。

松や馬酔木の混じる雑木帯を登り詰める
と、左に大きな崩壊地がある。新緑を自慢れ
た眼に白い砂ザレ地が新鮮に感じられた。
崩壊地の上部を掠めたおおも登ってゆく
と、やがて道は1022mのピークの東側を結

む坂道となり、小笹も現われはじめる。左側
は1022mのピークの雑木の山肌、右側は八
木尾谷へ緩やかに雑木の斜面が下つている。
潮音がかすかに聞こえているが、八木尾本谷
はまだ頭分下を流れているようだ。

コンタリに沿つて乗っ越すような所を2
、3越すと、右の雑木が杉の樹林に変わると、
小笹が多い緩やかな道となり、やがて102
2mと果無東部から南に下る尾根の鞍部につ
き、西側に大展望が開けた。

雄大な果無山脈南面と1022m北斜面がV
字状のフレームをつくり、その空間に熊野三
千峰の山並みが重畳と続いている。
果無東部線にはカヤノ段、冷水山、安塔
山などが縦に重なり、これらの山々から南へ
派生する尾根上の小ピークが、それぞれの高
さを競い合っている。

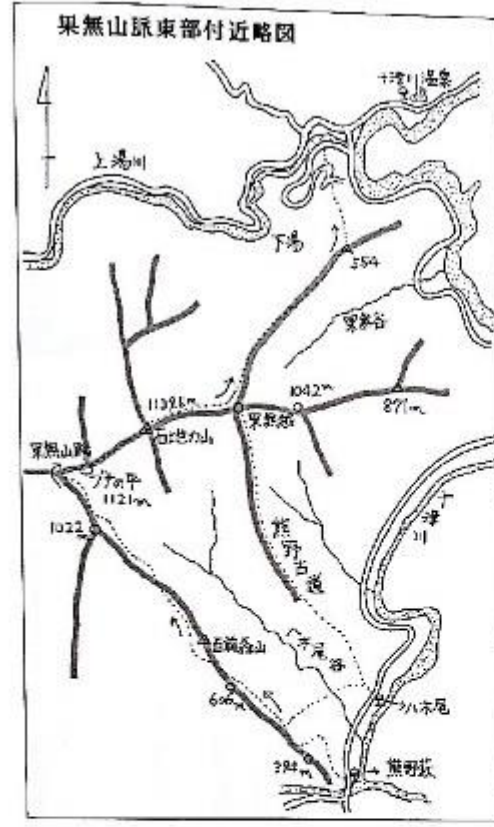
ただ残念なのは、近くの尾根につけられた
外相谷林道で、白い切り通しがいかにも人工
的で、山の奥深さを半減させている。

鞍部からは、いよいよ奥無東部線への最後
の登りでフナが混じる樹林帯をゆく。途中、
ミヨウガタワから十津川村小屋への山腹道を
左に見送り、まっすぐ登ってようやく主線
鞍部道についた。道標が立ち、左・ミヨウガ
タワから冷水山、右・フナの平を示している。



1022mのピークの鞍部より熊野三千峰を望む

右へ折れ戻りの無いブナ林の小道を少し登って、11時すぎブナの平に到着した。取り付きの熊野林より所狭約3時間20分であった。ブナの平は、東西に延びる果無線路上にのつべりと盛り上がった立山ピークで、北側は深いブナ林のため展望は無い。しかし、南側は山頂がすっぱりと切れ落ち、樹木も無く大観をほしいままにしている。眼下には深く分け入る八木尾谷を深んで、二つの大きな尾根が鈍く光る熊野川まで緩やかに下っている。



右は今登ってきた尾根で11時22分、百間瀬山さらに3994mのピークと登行ルートが手にとるように眺められる。左の尾根は八木尾から果無線、さらに十津川へ下る熊野古道の尾根だ。この尾根のバックには大峰山脈南端の大黒天棚岩、五大堂、大森山が熊野川より順次に間接を上げ、玉置山に連なっている。そして、深く静やかな熊野三千峰の山また山……。

11時50分、昼食を終えてブナの平出発。次のピーク石地力山へは主稜線につけられた緩やかな下りと登りで、最初はブナの多い樹林帯を下る。10分程下り直登りになりかかる頃、左手の樹林が開け今度北側の展望が得られた。巻道伐採されたつれづれはブナが真新しい。緩やかに登るにつれ展望は益々拡大する。適当な切り株に腰をおろし、双眼鏡と地図を手に再び大綱を牽しんだ。西方向は果無山脈を形成する各ピークと、それから派生した数本の尾根が、根を張るように上湯川に下っている。北西から北方向にかけては奥高野山群のオンパレードで、近く牛廻山から丸尾山にかけての長大な山塊。その後ろには舞臺岩、墨又山から法主山あたりに至る連山、更に遙か遠く熊野古道を前主とする長い狭いスカイラインが重々として打っていた。大峰山系は石地力山から下る大きな尾根に連れられ、ここからは見えな。12時半、石地力山につく。北側が完全に伐採され丸裸の山頂だ。左に上湯方面を下る踏み跡があるが果無越へは右の樹林帯を下る。展望の無い樹間の否むした道で気分が落ち着く。一部クマ笹を分ける所もあるがブッシュという程のものでもない。途中、道端に熊か猪を捕獲するため古い鉄の籠が置かれてい

た。13時ちようど、果無越につく。小さな石地力が祀られた歴史を感じさせられる樹間の小台地で、右に八木尾への熊野古道が下っている。小休後、左の十津川温泉に下る熊野古道を歩く。しばらくは杉の植林を下る急坂で、これを抜けると眼前にまたまた大展望が得られた。ここで初めて大峰山系が望め、笠掛山、蔵持、行仙堂など大峰南部の山々、更に由八入山、石仏山など大峰主稜から西に派生する山々を眺望することができた。道端に祀られた石の観音像を見ながら、歴史を感じると古道を下る。御堂が建つ明い台地で、今日最後の休息をとる。ここからは幅広い道となり、右に果無谷の瀬音を聞きながらたどる下り山する。下りきったところは果無線路上から上つてくる林道で、現在も工事が進められている。林道を下って黒牛を放牧する一軒家の前を通り、次のヘアピンカーブの所から林道を離れ、田雨の中道、民家の庭先を通り抜けると、再び熊野古道の石畳を下る。この辺り地図のルートと若干異なっているので要注意。熊野古道を下りきると、上湯川右岸につけられたアスファルト道に出て、右にゆくと5分くらいで国道168号に合流した。後は赤

い鉄橋を渡り、一路十津川温泉に向けて最後のがんばり。15時前十津川バスセンターにつく。バスの待ち時間を利用して、バス停から数分の所にある公衆温泉(200円)に入浴。ビールで酒を潤し、15時48分発の五五池行き奈良交通バスの客となる。結局、今日も終始人に会わない私一人だけの山旅だった。バスの車窓から仰ぎみる十津川の山々に、少し旅情を感じ「機会があればまたくるぞ……」と心の内でつぶやいた。この辺りの豊かな雰囲気にも包まれた山々は、私の中にそんな旅情をわかせるほど遠い山だった。(平成4年5月22日歩く)



キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48L 赤札 ¥9,000

アリゾナ35L # ¥6,800



ヨジメスポーツ

〒543 大森町天王寺区南30番地4-70

TEL06(772)7231

FAX.06(779)2191



特長

① パラレル、インナーフレーム付

② スーパーウエストベルト付

京都北山

ほんまのはなし (その4)

北川 裕久



花尾根の思い出

第16話

尾根道を歩いて楽しいものと言えば、一番にそのすばらしい風景である。そして、何よりも心を和ませてくれるのが尾根筋に咲く花である。2月下旬のマンサクに始まり、ミツバツツジ・ヤマツツジ・ヤマザクラ・タニウツギやホウの花と、数えればきりが無い。個人的に好きな花といえば、渋谷に咲く、あの縮れたような黄色い花のマンサクである。

ある年の2月、旬、まだ春と呼ぶには早く、風が冷たい城丹園尾根の飯森山付近を歩

いていた時のことである。もちろん、尾根筋には残雪もあつた。前の年、同じ所を歩いた時には、雪が少ない冬であつたためか、谷の源頭部分に雪を残すのみで、日差しも暖かく感じ、日あたりのよい場所にはマンサクの黄色い花が、一足早く春の訪れを告げていた。しかし、前年とは全く違う季節の感に、マンサクの花など咲いているわけがないと思つていたら、反対側付近の尾根にたつた一本だけ、小さな黄色い花をつけた木を見つけた。うれしくて、通り過ぎてしまふのが惜しくて、何度か何度も、後ろを振り返りながら黄色い花を見ていた。

そんな小さな花にさえ美しいと感じるのは、一つの小さな生命と生命のふれ合う瞬間

第17話

林道を滑つて下る

へんてこ野郎

近年、北山の裾根筋や谷筋には、たくさん林道が開かれていて、木材の搬出用に作られた林道がほとんどであるが、中には何のた

につき立ち入り禁止の看板が林道入り口にあるのをよく見かける。

ハイカーにとつて、林道は実感を与える道であり、又、やっかいなアスファルト道でも無い。山の中で道に迷い、突然、ポツと林道に飛び出した時の、あの何とも言えない安心感には、林道というものの存在に感謝する。その後、ひたすらテクテクと目的地まで歩くことになるだろうが、しかし山行を計画するうえで、この林道を1時間半歩行し、帰路には別の林道を1時間歩かねばならないというようなコースの山行では、林道というものは、全くやっかいな代物で、ましてやアスファルトともなると登山靴の種類によつては、足音を精めかねない。

この林道に要する歩行時間を、何分かでも短縮でき、なおかつ体力の消耗を少しでも防

びようならば、もつと一日のコースを進行することもできなく、帰りは、一本早いバスに乗換することが可能である。

そこで私は、馬鹿な知恵を絞つて、別に知恵を絞る必要もないことだが、ユニークな発案を試してみた。

ラエモンのように、既着用バイクなど出せるものでもない。やはり登りは自力で登る以外ない。帰路、下りの林道にこんなものを使つたらどうかと考へて、新たに購入したがローラースケートである。ここまで書くと皆さん御想像の通り、一気にアスファルト林道をバス停まで滑つてみようという試みである。早速私は祖父谷林道を最初のテスト滑走場として登山コースに組み入れ、山倉橋から飯谷峠を経由して、魚谷、石仏峠、祖父谷峠と歩いて、祖父谷林道を下ることにした。

今では、林道が祖父谷峠より東の尾根に延びているが、その当時はまた復讐の登り口よりずっと下流まで、アスファルト道は木柵谷の出口に付近までたつたように記憶する。地道の林道がアスファルト道に変わったところで、ゼツクからローラースケートを引いた。私の購入したものは種々アスチック製のローラーが付いたもので、トレンキングシューズを固定ベルトで止めて使用するタイプの、比較的軽いものだった。重量はほとんど気にならず、木製のワカンの持ちが重いくらいであった。

一番良いのは、林道のない登山コースを組み合わせることであるが、バスを降りていきなり山の斜面を登るわけにもゆかず、ポケットから

いざ林道を滑つてみると、歩いていたら感じなかつたが、思つた以上に急勾配であ

だからだと私は思ひ、毎年、同じ情景に出会えることは、私にとつて、何より幸福なことだ、大好きかもしれ

のローラーが外れ、右肩だけで滑ったこともあった。

一年間ぐらいは滑っただろうが、2台のローラーを壊してしまい、それ以後は従来通り歩いて林道を下っている。

また、獣のことだから、どこでどんな突っ張りもない雑草をやるかわからない。どこかでこの高床で寝る野郎を見かけることがあるかもしれない。どうかその時は、声をかけて頂きたい。

第18話

古き時代への タイムスリップ

北山歩きを楽しむの一つ、歴史や文学の探案ハイキングは、いにしえびとの足取りを辿ることによって、昔の様子を体感したり、自分なりに想像しながら物語のような世界を彷彿とさせることである。

時には、南北朝時代へ、又、時には平安京造営のまつた中へと、頭の中は、それぞれの時代へタイムスリップしてゆく。

「石仏の探索登山は、事前に調べた資料を参考に、旧道を歩いたり、峠の周辺を探った

り」と、時間を忘れるくらいにその古き時代の魅力に取りつかれ、考古学的な思考にはまりこんでしまふ。

私は何林かの石仏を土の中から掘り出してきた経験がある。それらの石仏は何らかの原因によって転げ落ちていたに過ぎないし、そのまは土の中に埋まっていたに過ぎないのかもしれないが、ある日何かに取り憑かれたように探し始め、完全に埋もれていた石仏を探し出た時には一層にいた家内もゾクとした。言う。それは、私が結婚した翌年の11月下旬、金久島養老の「北山の峠」を洗いで、岩面から興味のある大石の奥、寺谷峠へ家内と二人で登った時のことである。

その本によれば、峠には昔の古い石仏が一体あると記されていた。私達は峠の登り口、杉の木の二本並んだ間から峠道を発見し、登って行った。すぐに急斜面のつづら折れとなる。この尾根には、古い杉の大木がたくさん残っており、何れも落葉で無残げになっていた。中腹まで登ると土は草原の下で荒廃し、微かな微塵が舞っているだけであった。

ようやく主稜線が見えてくる。後継続きに峰床山の雄大な山容が視界に飛び込んできた。荒れた峠道が幾分緩やかになってくると時は近い。峠付近は、槍、杉の雑然とした風

景が展開するだけであった。

ここが峠だと知る瞬間に通り過ぎていたらしく、私達は稜線の反対側を歩いて徐々に下っていた。これはおかしいと少し戻り、峠の位置を確認する。この時も若竹園境の知井坂と同じように峠道が尾根を沿って「尾根と平行に近いぐらゐ」に越えており、なおかつ時の状態が平坦であるため、判りづらい。

金久島養老の若竹園境にあって石仏は、時を見渡しても見当たらぬ。尾根には大木もなく、ただ雑然とした槍林が広がるだけだった。私は家内と三六分けて、付近の尾根を行ったり来たり探索すること、約2時間。石仏は全然見つからず、とうとうどちらからともなくあきらめて久多方面へ下り始めた。

峠から久多方面へは、大石山側とは違い、荒れてはいるが、深く割れた道が残り、アスナロの木が鬱蒼と、この山神の個性をつくりあげているように思えた。

峠から約30分も下ると、林道に飛び出してしまった。八ノ平方面へつながる林道で、峠道は寸断され、所々には残っているものの久多まで旧道をつないで歩くのは不可能のようだった。私達は沢々、寺谷峠へ引き返した。

私は、まだ石仏探索があきらめきれず、一もうあと30分だけ……と、再び探し始めた。でおり、気付かれずに釣るためであるが、これはあくまで基本であり、魚にさき気付けなければ、上流から釣っても向ら問題は無い。では、竿なしでどのようにして釣るかというと、まあ釣り具店へ行つて探検バロ、7・5号（ハリス0・6号付）と直線2.3mぐらいのオモリ、道糸0・8号、1号、2号を買って揃える。そして、この釣りのウキは、エサを浮かせるためではなく、インジケーター（目印）として取り付けるもので、浮力は強くない。基本的には直線エサ、長さ2mぐらいまでの発泡スチロール製のものを自作する。この加工したインジケーターは、ブル・スルーマーカ等の名称で市販されており、蛍光色に着色されているので視認性もあり、自作するのが面倒な人は、これを使うとよい。フライフィッシング用品を扱う店なら手に入る。

用具が揃えば、セッティングである。まず、0・6号ハリス付きの釣針を30センチぐらい残して0・8号道糸を約1mつなぎ、その元部に道糸1号を約1mつなぎ、その1号糸にインジケーターを通し、1号の元部に道糸2号を結びつける。オモリは、ポイントの水深にもよるが、基本的に直線エサのカミッパンオモリを、釣り針から30センチぐらいのところに

そして、もうやめようと思い始めたとき、もしや、土の中に埋もれているのでは、と気がついた。地面に頬をあて、地形を斜めに透かして凹凸をチェック。視点を交えて見ると、見えないうちに見えてくる。幾つもの小石である。そして、ついに峠の中央部より大石山側の少し盛り上った薬土の下に、比較的大きな石を発見した。石の表面には苔が生え、石かま判別がつかない。私は、そつと掘り起こしてみた。すると、どうだろう、首のない背丈35センチの石仏が前のめりに倒れ、土に埋もれていたのである。私の石仏に対する執念も驚かせる行動に、家内は、ゾクとして後ずさりしたという。

ボリタンクの水で石仏の土を洗い落とし、尾根上の少し高い所に安置した。

私が掘り出すまでの何年間かは、土の中で人の通らぬ峠の風を聞いてきたことだろう。私以前にこの

石仏を見た人があるなら、おそろしく10年以上も前にこの石仏と照らし、他に



石仏の発見地、寺谷峠。このように、他にまだ何体の石仏

第19話

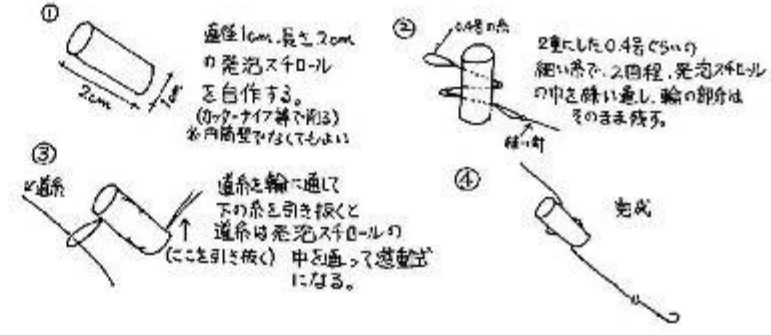
溪流魚とのふれあい

山を歩く楽しみは無数にある。動物や昆虫、植物とふれ合う機会はかなり多いと思うが、北山の渓谷に棲む魚たちを手にとりて見た人は少ないだろう。

そこで今回は、リリース（逃がしてやること）を前提とした釣りで、竿なしでヤマメやイワナを釣る不照露方法を紹介しようと思う。

溪流釣りの基本は、山下から釣り溜ること。これは、魚はすべて上流に向かって泳い

★ 発泡スチロール製 インジター の作り方



取りつける。
エサは、川虫(カゲロウヤトビケラの幼虫が深淵の小石についているので、石をはくって探す。比較的大きいものを、一匹ほどお尻に釣をチョン掛けして、上流から、魚のいそうなポイントへ静かに流してやる。徐々に手元の糸を繰り出してゆき、アタリ(魚がエサをくわえた時の手)こたえがあれば、インジターが移動するのでわかる。軽く糸を張ると魚は釣に掛かるので、ゆっくりと寄せて取り込む。水中で釣を外してやれば魚を痛めずにすむ。また、川虫を探るのが面倒な人は、釣り具店でミミズやパイオウームを買っておくとよい。しかし、渓流魚の生態を知る上でも、川虫を取ることをすすめたい。
山歩きの後、ちょっとしたアイデアで魚を釣るのは楽しいものである。北山で釣れる魚

は、アマゴ・アブラハヤ・カジカ・ウグイぐらいで、イワナとなると棲んでいる渓流は限られてくる。全国の河川には、禁漁期間がある。京都府では毎年10月1日から翌年3月中旬頃まで、各渓流に問い合わせてもよいが、この期間以外でも、ここに紹介したようなリリースを前記とした釣り方なら、断る必要はないと思う。但し、釣りのいる所でのこの釣りは控えよう。ポイントを決らしてしまつて誰にもない所が望ましい。この釣り方で絶好のポイントを教えよう。幅1・5m以下の渓流で、流れの上を藪が被さっているような所は、魚の絶好の隠れ場所である。他の釣りの人は竿が出せないで入つて来ず、流し釣りを試みるには最適である。
藪の透けた所から静かにエサを下流へ送り込んでやれば大抵釣れるものである。なぜならば、藪の下に潜む魚は警戒心も薄く、流れてくるエサに思わず飛びついてしまうからである。
私達は、釣り人ではない。あくまでも山歩きという基本的な行動の中で、北山の渓流魚にもふれてほしいという思いで、ここに私達の簡単な釣り、流し釣りを紹介した。
私も、最初は半信半疑だったが、この釣り方でアマゴを釣っているうちに、釣る楽しさ

のとおりことなり、とうとう趣味としての山歩きと釣りが進捗してしまつた。
ともあれ、山は自由に楽しめる。山歩きに飽きたら溪流で遊ぶのも又、楽しいものである。
流し釣りの仕掛けは、サバイバル用長としても有効であり、いつもザックに入れておくとよいだろう。

第20話

きらめく石仏の涙

越前国境の庄屋に、トローとイザナミ時という、忘れられた時がある。
トローとは、どんな字を書くのかわからないうが、後者のイザナミ時は、出雲の名時で

あることは明らかだ。
石仏は出雲が民族移動で越えてきたという伝説で有名である。石仏のすぐ奥側のイザナミ時も、そのこと何らかの関係がありそうに思ふ。
私は、トローとイザナミ時の二つを結ぶルートを、初夏の風を受け、気持ちよく歩いた日のことが強く印象に残っている。
なせなら、トロー時で忘れかけたような坂道の石仏を見つけたからである。掘り起こしたと言ふよりも、前倒れで土に埋もれていたものを元通りに起こしただけのことである。
この時も歩く人が少ないらしく、黒田も区屋も、かなり荒れており、道を探すが精一杯だった。
しかし、黒田前の寄り口は不景気だが、巷

き道へ取りついでしまつた。松並木の立派な古道がしばらくの間、荒れてはいるものの、深く掘れ込んだ道は、時の現役時代を物語っているようだ。峠道は、どんなに立派であろうと、使われなければ、塵土となって自然の中へ消滅してしまふ。この峠道も消滅している部分がある。何箇所かある。そんな峠道を歩いてゆくと、時は夏の鮮やかな光を受けて、深緑の中にあつた。
区屋側から吹き上げてくる風は、この上な大自然の贈り物だ。私は、背の骨間を滑り下りてくるような初夏の光を受けながら、路傍の石に腰を下ろしてしばらく休憩する。小鳥のさえずりを聞き、汗がひいてゆく何ともいえない爽快感だ。山歩きの実感を味わつた。私は、区屋を振り返り、ふと峠の奥の奥に、石垣の崩れたような跡があるのを見つけた。

霧の森 (ふぐいの山・四季)

増永 迪男 著 四六判・二〇〇〇円
野伏ヶ岳のブナ、荒島岳のヒノキ、徳平山のミズナラ、薙刀岳のトチ、新緑、紅葉、霧氷と四季折々の装いで「あの木」が待っている。

琵琶湖周辺の山

長示 清司 著 四六判・二二〇〇円
一丁坊の足跡―比叡や比良、伊吹や鈴鹿など、近江の山々を、日帰り山行中心に気の合う仲間たちと10年で間山歩いた足跡の記録。

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
京都 075-751-1211 〒606



シャクナゲの花

だ。これから先の尾根道は杉、檜、ナラの混
じる雑木林、樹間にシャクナゲの淡いビ
ンクが彩りをそえ、ルンルンの尾根道を快調
に歩き進む。
突然、先行のハイカーが樹間から戻ってき
た。花に見とれてマイマイコしたらしい。難
しい尾根道でもないのに……。我々グループ
の最後尾についてももう、益々長い列になっ
て「例木注意」「頭上注意」「足もと注意

意」などと連呼しながら灌木にかわった尾
根筋を西進する。

倒壊した作業小屋を過ぎると法電線集束下の
広場に出た。ここで「三日の小休止。後尾に
ついていたハイカーに、この先のコースを教
えて先行させる。又我々だけの山となった。
前方正面に遊杉山が岩屋谷を隔てていっば
いに広がっている。昼食はあの山頂でと指示
する。またその右に連なる稜線はこれから通
る腹巻き道だと説明する。今度は無農薬の八
割ミカンが配られ、よく冷えていて一汗かいた
後だけにそのスっぱさが実に美味し。

これより遊杉山のユリ道を歩いて天ヶ岳と
大原への分岐三差路へ到着。緑のカーテンご
しの日影道をしばらく行くと、大原からの道
に出合った。天ヶ岳が奥奥谷をはさんで緑の
樹間に見える。紺碧の空の下で見る壮麗な眺
めは快晴に恵まれた今日なればこそ。

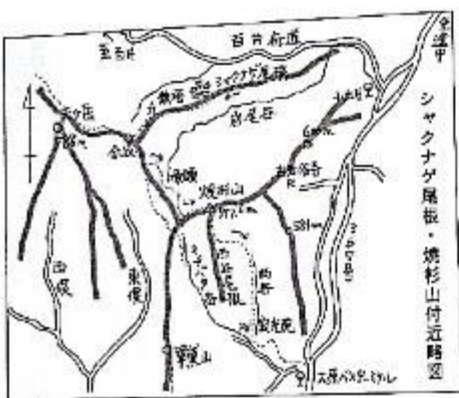
大原へのコースをとり、岩屋谷への乗り越
しの分れで大原からの雨林に出会うが、我々
うまく遊杉線乗り越しの時に逃げて人員官呼
の小休止。増えていたライコッチャと苦
笑する。眼下に大きく落ちる岩屋尾谷。先ほど
林想した鉄岩広場、シャクナゲ尾根と日字型
に広がる。岩屋谷道と分れ遊杉山へとユリ道
腹巻き道をまた長い列が続く。五つほど腹と

ダを巻いて岩屋谷の蘆頭に出る。最後の木場
で水筒を満タンにして、甘い軟水の清水で喉
を潤す。

ここから遊杉の岩の橋のガレ場の急登「本
日のハイライト」下を急坂を駆け、「遊石住尾」
で無事蘆頭を乗り越え、檜の鞍部広場に登り
着く。これより左上、遊杉山の支尾根杉木
林下の急登も道なんか無い、大原の乗り越し
からの道と合う付近までのごっつぱり列が続
く。ワンピッチ、10分程で右からの登山道と
合い、前山もワンピッチで登り着いた。

展望が開け、比良連峰、遊杉山から遊杉山、
菅子山、天ヶ岳、別所山、花背峠のアンテナ、
天狗杉、鞍馬尾根と山がいっぱい広がる。

遊杉山まで緩い起伏の登りで12時ジャスト
頂上到着。新幹線並みだ。これも大部隊とは
言え、皆さんの脚力が揃ったこと、ふだん
の努力の結果だ。頂上では先客が弁当を分け
大きく場所をとっている。こんな所で24人の
楽しいお昼はできないと西谷尾根の広場へ移
動する。2分とかららない。緑いっぱいの雑
木林広場で昼食。後は下り一方だけ。適当に
アルコールドリンク。早速ビールをあける。空
気がよいからビールが旨い。女性方が多いの
でご自慢のお土産を相伴にあずかり有難く
頂く。デザートとブランドー紅茶を頂き、楽



シャクナゲ尾根・遊杉山付近地図

しいお昼の饗宴を終え、記念集束写真を撮っ
て下山出発。

「ユミ」つ落ちていない枯れ葉の感触尾根
コース、新幹が視力の活源。ほんとうにこの西
谷尾根道は危険もなく穴場コース。ミチバタ
谷はテラスもあるが、こちらは断崖があるの
み。松の斜面に変わると右へ急な新幹道にな
る。今回は正規の道を西谷尾根道終点まで付き広
場に下山する。ここで最後の休憩をとる。
今日の例会は山菜摘みを目玉にしていた

が、もうひとつで、この谷でミス、ヤマアザ
などがとれてやつと目的を達した人もいた。

後は林道歩きのみで、砂防ダム工事中の乗
乗車を取り越し、観光路の観光道路に下り
着いた。桜の花も散ったとは言え、大原は観
光の人波みでいっぱいだった。その間隙を縫って
大原バスターミナルに着いた。待合所からト
イレ建物まで続く乗客の長い列を見て、各自
適当に乗車してくれと、「ここ」で解散。高層出
町棟敷地宅組と別れ、空いた市バス16時4分
発。全国整備で北大路駅へと、早い帰宅の例
会だった。

緑がいっぱいのクロンラオゾン、これで又
一年成長できる。山は新緑で一番いい季節。
明日5日の臨時山行も車内で決まる。五
月の山は楽しい。

(平成4年5月3日歩)

△参考タイム▽

- 北大路駅 8・05 ← 小出町 8・55 ← 9・10 ← シ
- ヤクナゲ 8時40分 9・25 ← 鉄道下 10・30 ← 45
- 天ヶ岳分岐 11・00 ← 岩屋谷 11・20 ← 焼
- 杉山 12・00 ← 13・30 ← 西谷尾根 14・40 ← 50
- 大原バスターミナル 15・40 (解散)

△撮影所▽ 2万5千〜大原
昭文社「47県都北山」

昭文社・出口 昭文

「この花」この草

マンナンシロ(G. thunbergii)

マンナンシロ (Gentianaceae)

初夏の陽照の下では、つい水分を取り
過ぎたので、下痢・嘔吐を起こすので
可。家庭の救急箱の中の止瀉薬には「ル
ペリン」という成分が配合されていることか
多いのだが、これは民間薬の代表ともいえる
マンナンシロの有効成分だ。

古くから下痢止めの効果とされており、
小野蘭山の「本草綱目拾遺」(一六〇〇)に
は「蔓草(マンナンシロ)は「止瀉」の効
用を認めるに効あり。故にマンナンシロ
「蔓草」とあり。又「蔓草」は「蔓草」の効
用」は由來已久し。

蔓草の花根に苦味を採取し、この
時期にもっとも成分が多量に含まれている
ためです。又、この時期は形状がよいため
他の自生植物(マンナンシロ)よりかんたんに
採り取り分けられるためです。
下痢止めには、「一日」〇水が〇〇〇
を加えて割じ、約半量(約半量)のものを
温かめて、一回に分けて服用します。服用
の多い人は、1回分を2回に分けて服用し、
服用した方がよいです。

大和・葛城山から竹内峠へ

松永恵一

葛城の山

大和が輝きを輝しはじめ五月。柔らかに光を透かしていた緑がようやく濃くなる頃。私の身体の中で眠っていた主たちがいつせいに活動を始める。山へ行こうと騒ぎ出す。爽やかな五月の風に吹かれながら新緑の木立ちの中をめぐり、静かな山歩きを楽しみ、ブナの林に包まれ、巨木を見上げながら歩く。思ったより五月の日照しをよむわりとさえずり、やさしい木陰を投じている。登山道からはずれ、休憩する。壮大な空を仰ぎ、吹き抜ける心地よい風を身をゆだね、鳥のさえずりに耳を傾けてみる。なんとも青えない爽快さ。どこかノスタルジックな気分をさせてくれる。

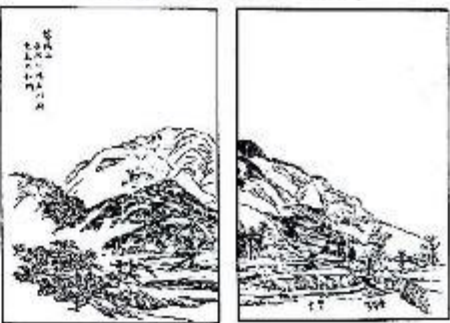
登るにつれてじんわりと汗がにじんでくる。顔の汗をこぶしで拭く。まるで夏を思わせる暑さに、長袖シャツを脱いでTシャツ姿になる。

小さな滝が現われた。陽の光を浴びてキラキラと輝いている。手を洗ったしてみる。キラリッと冷たい。苦むした岩の上を滑りながら流れ落ち、ぬれた岩が湯様に輝く。冷たい水で喉をうるおす。

夏の花の色彩はまず白。卯の花がいっぱい白い赤形の花をつけている。さわるとしやりしやり花輪が鳴る。清楚な白の前にはさやかな緑の草々。そして、はあつと輝くようなツツジの花がひらく。やさしい初夏のははみだ。

ひとあしひとあし歩くのがうれしい。

葛城山（日本名山図会 谷 文見著）



葛城の山並み

大和の西を取り囲むように高くもなく、低くもない峰々。ゆるやかな丘陵を描く圓背やかな山並みは、古くから人々に親しまれ、生活にとって欠かすことのできない風物であり続けた。

大和府上奈良郡葛城の金剛山脈と、大和府と和歌山県境の和泉山脈の二つの山並みは総称して「かつらぎ」と呼ばれた。「葛城雜記」は、

「かつらぎは大和のくにに限るにあらず。このみねは東南に紀の川ながれをしき、西南は友がしま、西北は海邊の山脈をかきり、東北は石川のなかりをさかへ、大和川の谷合よりその水上にたたりては電瀬といへる所をわする。是に紀泉西和の四か國に跨りて行旅三十八里が間の地名なり」と記す。葛城・金剛山を主峰と、南の友ヶ島から北の集の瀬までのかつらぎの山々は古来から神の鎮ます山として崇められ、古史の舞台となり、時を経て中世には南朝の悲願が展開された。

「日本書紀」の卷三の福武天皇即位前記に、次のような神事がある。

「(高天原)は、背丈が短く、手足が長く、性燥(こころ)びと」と似ている。皇孫、葛のついで御をつくり、覆いかぶせて殺した。よつてこの山を葛城となつた」

水鏡時を採んで七を真境、南を会館の西山に分けては、古くは向山を総称して葛城山といひ、その東麓を葛城の國とし、西へ五里(約八キロ)に葛城氏が天皇宗と並ぶ勢力を張つていた。

遠い昔に田家する神事や旧説が、金剛・葛城の山並みにそつて点々と残り、雑話と伝説のペールが濃くたたまっている。

葛城の神話

雄略天皇が葛城山で、猪を射獲ない、追われ木の根にのぼつたことがあった。またあるとき、葛城山に登つたときのことであった。百官みな紅い紐をつけた袴の衣を賜つて着ていた。その時、向こうの山の屋根つたいに登る人がいた。かなたも天皇の行列のようであり、豪華も人々の様子もそっくりだった。天皇は問ひかけた。「われをおいて後に王なした。かような姿で行くのは誰ぞ?」その答えはこちらの問ひのことと答へて同じであった。眼をきた天皇は矢をつがえた。相手も矢をつがえた。天皇は言つた。「たがいに名をのりあつた。矢をばなすとつ」こちらから先に名をのり。相手も一歩、相手も一歩、百官の侍、葛城の一言主の大神なるも「おそれ多い。大神が姿を顕したまうとは」天皇は、太刀、弓矢をはじめ、百官の装束を賜がせて、大神にうやうやしく敬した。

一言主神とは、イエスカノでこたえを託言の神であったことがわかる。「日本書紀」に書かれているこの話は「日本書紀」雄略天皇四年の月の条にも載る。

今に残る一言主神は、葛城の里人は「イテゴンサン」と稱しみを込めて呼び、願いことは一言しか聞いでもらえないと信じている。

復の小角の神話

修験道の開祖としてあがめられている愛宕の小角(神業大菩薩)は、この葛城山で修行をした。平安時代前期に書かれた「日本書紀」卷第二十八に、くわしい話が載る。

「復の小角は、賀茂一族の出身で、葛城山麓の茅原村の人である。生まれながらにして賢くて、博学の点では郷里で第一人者であった。仏法を信仰し、修行につとめた。四十余歳の時、岩窟にこもつて石を砕き松を削み、海水を洗み、俗界の塵を離し、孔雀の呪法を修習して、鬼神を驱使して何でも自由にすることができるようになった。鬼神に言好の金峰山と葛城山との間に橋をわたすまことに命じた。神々はみな理いた。一言主神は、朝庭に訴えた。朝廷は小角を捕えようとしたが、容易に捕えられないので、その母親を捕えた。小角は、母を許してもらいたいため母に付き、伊豆に流された。母は伊豆で修行し、夜は駿河の富士山で修行した。後、許されて都に帰ったが、仙となって天に昇りさつた」

平安時代後期に書かれた「古事物語」卷第十一の三では、「葛城山は、神代姿であったので、夜に隠れて夜々いそぎをこらした。小角はそれを察して、指図していた一言主神を呪縛して谷底に置いた」とある。

コース概観

今回のコースは、不動寺の原から龍淵の滝行者の滝を経由して葛城山頂へ登り、頂上から大和、河内の国界を北に歩き、竹内峠に下る。この道は北は二上山麓のドンツルムから南は葛城山へと続く金剛葛城山系を縦走する金剛葛城自然歩道(ダイヤモンド・トレール)の一部で、よく整備され、道標も設置されていて、山あり谷ありの起伏と変化に富んだ、安心して歩ける自然歩道である。

近鉄御所駅で下車。駅前から葛城ロープウェイ前までバスに乗る。歩いて行くなら、葛城の入り口に鎌倉時代の地蔵石仏(寛元三年銘)、葛城集落のはずれには、梓の中に浅瀬りした方角を模写の蓮台にのせた権羅共地蔵菩薩(室町後期)がある。道日標をたどって旧道を通り、大和郡古の町(石)を越え一年後を向って急坂を登るとロープウェイ前につく。ロープウェイの石、不動寺との間から山道に入る。ロープウェイを向き見ながら谷間の急坂を登る。よく整備されていて一部階段状になっている。前庭の滝前の広場につく。滝は落差15ほど。木のベンチが置かれ、夏には子供たちが水遊びに興じている。滝の水で茶をうるおそう。

谷川の流れの横を急な下り坂が続く。滑ら

ないように注意しよう。初夏には卯の花が咲き乱れ、可憐な木イチゴが赤や黄色の実をつける。ほおろぎながら登る。清少原言「杖(木)で」あてなるもの。……いじりてくつくしきこのいちごをてくひたる。上野寺も……。急な下り坂でたがうなかわい子が、イチゴを食べている。このこと書いたのはこの木イチゴのことだろうか。

行者の滝を通り過ぎ、周囲が杉の雑林でよく踏みしめられた道をアップダウン登る。大きな石が石畳状に積み重なっているところに出る。ベンチに腰をおろし、汗をぬくおう。大和盆地が美しい。右に急坂を登りつめると、天神ノ森のブナ林で、天神社からロープウェイの山上駅へでる。灌木が多いので野鳥が多く、林のあたりから小鳥たちの声が聞こえてくる。頂上までは広い芝生道が続いている。左へ木の小橋を渡ってそこはもう山頂の白樺立って増えたくて、そこはもう山頂の白樺食草。途中で葛城高層コッジへ向かう道と分かれる。白樺食草の前から959・7の頂上へ向かう。山頂は広い芝生道になっていて360度のパノラマ。東に谷城、大城、大台の山脈が屏風となり、眼下に飯俣、耳成、天の香長山を配した大和盆地、西に河内平野から関西新空港が浮かぶ大阪湾、六甲山、南

に巨大な山塊の金剛山、さらに和泉山脈が連なる。葛城山の峰頂には、5月「密林日本一、一日百乃木」といわれる天然のツツジ園が満開となり、山は真っ赤に染まる。山上にある国民宿舎葛城高原ロッジは気軽に利用でき、宿で、食物はかも鍋、しそ飯、山菜料理、食事だけの利用もできる。周辺では、自然探検路が設けられている。動植物の説明をした案内板が整備されており、歩きやすい道。ブナやミズナラの林、イカリソウの群落がある。

葛城山ビジターセンターで動植物・地質の学習をした後、夕園から右へ回り込んでしばらく行くと、西行法師終焉の地と名高い弘川寺方面へ直進。二上山方面(石)に分かれる。二上山の方へ急な木の階段を下る。30分ほどで平坦な道に変わる。周囲は松の雑林で芳香がたちこめてくる。うす暗い林の中をダイヤモンドトレールのしつかりした道を上り下りしながら進む。急な階段を下ると芝生帯。ここから葛城山への登りがこたえる。15分で658・8の岩橋山。植林されていて遊歩はきかない。受の小鳥が、奥陣に吉野の金峰山と葛城山との間に橋をわたすように命じた伝説の石が残る。平坦な道になったり急な下りになったりし

ながらテラス状に開けた平石帯につく。左にとると蒸籠湯が隠れたと伝える高貴寺。参道の美しい栢の並木、本堂前の枝垂れ桜は早春。花の季節に前をぬきたい。出発が遅くこのあたりで夕陽がおとすれそうになった時は、右にとり平石帯から直接葛城山に出るとよい。昨から駅まで約1時間。

今回は竹内峠へ向かう。急な登りの後平坦な道になり、林道に出る。林道と山道が隣りたり合ったりしているが、できるだけ山道を歩いてみたい。まもなく舗装された林道に出てまっすぐ進み下ると竹内峠。三石代、難波と大和を結んだ日本最古の官道、竹内街道のゆかり。「日本書紀」推古天皇元年(613)に、「難波より京に至るまで大道を開く」とみえる。この峠は、人馬の往復の容易でない険難な古道であったと、明治18年(1885)に

竹内峠に建てられた「竹内道開闢碑」は伝える。「和河内界に峻険あり、竹内峠という。直立すること二百二十五仞、屏風を列ねるが如し。……」現在は国道166号線として整備された。国道を横切って旧道を進みたい。竹内の集落は坂道に沿って大和側の民家が残り風格のある集落である。田舎がもつとも頼頼した門人千里の故郷で、貞享元年(1684)の「野宮の紀行」の折、この里に立ち寄って句を残している。「わた河を登嶺に立ち竹のおく」が、鶴の塚の句碑となって、古びた集落の裏手にひそまっています。郷土の年輪を感じさせる情緒深い家並みをまっすぐにどんと下って、ハイパス道路の山麓線を横切ると、足根に丸輪を乗せた当麻町スポーツセンターの前に出て、まもなく大和街道と交差する。「右」よしのつば坂(こうや)左

はせ いせ)と山街道の石の道しるべがたまたま点と点とつながる。横大路といわれる長尾神社を起点とする古民の奈良盆地を東西に横切る官道は、櫻井市まで10数。ほぼ直線に通じていた。発掘調査によるとその道幅は30ほどであったという。近鉄葛城駅はすぐそばである。



- 近鉄阿倍野駅、御所駅 540円
 御所駅、ロープウェイ前 230円
 ロープウェイ前、山頂駅 620円
 近鉄御所駅、阿倍野駅 480円
 地図代 2万5千円(阿倍野、大和郡内)
 問い合わせ先
 奈良交通産業 07456(3) 2501
 葛城ロープウェイ 07456(2) 4341
 葛城高原ロッジ 07456(2) 5083

関西周辺

初夏の山
特選 コースガイド

- ① 三草山
- ② 伯母子岳
- ③ 龍門山
- ④ 小秀山と御前山



新緑の道(龍門山)

若葉が茂り、初夏の山歩きは緑したたる木陰の道となる。花が咲き、小鳥がさえずり、芝生もいつはいい、登行の苦しさもほど感

じない。爽快な旅路も待っている。

山が深くなって、汗はむねにならぬと軽装の山へ行きたくなる。登行は険しいが、深谷台のコースは涼感たっぷりだ。尾根はササ原

たのしい山歩き

尾瀬雑考⑩

「尾瀬ツアー今昔」

松下 満

JRの前身田代線の昭和40年代、5月下旬より8月末まで上野駅から上越線沼田駅まで急行「尾瀬号」が運転され、午前8時半より午前10時に到着する列車は沼田駅で乗客であった。当時は現在のように長距離バスを便ったの尾瀬行きはほとんど見られなかった。沼田駅前から大船渡行き、京上原行き、の東武バスも沼田営業所管内のバスでは間に合わず、群馬県内の各営業所よりかき集め、数十台の列をつくらせて国道120号・102号を尾瀬に向かった。

昭和40年後半になると、旅行社主催のツアーが目立つようになった。特に桐島風道の道路が沼田峠まで開通し、大船渡までバスの乗り入れが可能になってからは、尾瀬沼の沼田リツアーが増えた。

しかし、この頃のツアーは旅行社の下調べが不十分のためか、参加者の装備が軽装、天候の急変やドロコン道などで、多くの前人や後援人が出て難儀を思いをさせられたものである。

また東北周辺からの尾瀬一園日帰りツアーを実施した大平の旅行社では、午前5時前後に鳩待峠で客を降し、尾瀬ヶ原・龍門山・三草山と廻り、大船水を午後3時出発というスケジュールを組んでいた。ただひたすら下を

向いて歩くだけ、「この時間に間に合わない人は尾瀬が気に入ったものとみなして頂いて帰ります」とパンフレットに書いてあった。もちろん尾瀬集の同行はない。

日帰りツアーの持ち込み弁当で共同食中毒発生という事故もあった。バスの後部座席に昼食の弁当を積み込み、それを持ち歩いて尾瀬沼畔で食卓、間もなく中毒が発生した。患者多数のため自衛隊のヘリコプターが出動し、長崎小笠原の広域が運送のヘリポートと相成った。

高校生の尾瀬修学旅行の先鞭をつけたのは、大船渡まで高い神戸の難高校であった。さすがにマナーも良く、鎌ヶ原登山も黙然とした気持の長い登山であった(筆者もガイドとして同行)。

最近、山行中対向者との接触が少なくなったのは淋しい。昔は雑踏と同時に道の状況を敬えあつたものである。

尾瀬ツアーを実施する旅行社の新要員の中には、山のルールも知らない者もあろう。このような人に指導されたのでは、者も迷惑であろう。ドアツードアの旅行ではないのだから、参加するときは水分に企頭やその内容などを吟味してから旅行社を決めて欲しいものである。

が多いが、ベニドクダシやシロヤシオなど、めずらしい花にも会える。連休の頃なら雑木林の斜面にカタクリの花をみる。

「龍門山」へは、坂本谷・コガルミ谷・御前谷など緑のコースを登る。「石炭岩の谷」の上部は伏流となつて白い岩の道歩き。

「龍門山」は大船渡と車道が、山頂から天狗岩を往復してみよ。花も多く、パイケンツウの群生をみる。

宝前沢の名湯群を散策し、ホタテガサやヨコ谷(つめと)「花谷」(龍門山)だ。

「龍門山」は山頂から龍門谷コース、落石の多い龍門谷は注意。滝より上部は無名な谷となるが、降りつく松林は大層な谷を吹く音が心地よい。

「御前山」「龍門山」は人気のコースが多く、いつも混雑している。

「龍門山」は、沼の山頂から三ツ口谷と長石谷コース。宝前沢からはカスラ谷コース。いずれも緑のトンネル道を歩く。小坂谷から「入道ヶ原」へは池ヶ谷コースがよい。ちよこも慣れた人なら徒歩が体験できる。山頂にはキャンプ場があり、週末はテント泊まりでこれら鈴鹿の山を歩いてみよう。

源平合戦の山

三草山

初級コース(★)
慶佐次 盛一

播州の東部に位置する三草山は、源平の古戦場として古来有名な山である。『播州名所巡覧図説』には三草山古戦場として登場し、享和三年(1814)2月、三草山に陣取った高橋が平家軍を二軍に打ち破り、一の谷の河へと追い詰めた源平合戦の物語の一節を記載している。のちには建永三年(1336)に赤松出羽守則友が三草山に城を築き、数々の戦にも登場する城山である。しかし今はそんな戦の面影はなく、兵庫県立自然公園にも指定されて、家族連れでも楽しめる山となっている。

三草山へは大阪から、JR三田駅か、神戸電鉄三田駅が便利だろう。駅前に神姫バスのターミナルがあり、社行きのバスに乗り朝

光寺口で下車する。開発の進む近頃だが、まだまだ緑豊かな所だ。バス停を少し後戻りすると信号があり、三草山へと出かけた標識に従って左折する。東条新へ向かう車道だが、一般にはこの車道をそのまま進み、池ノ内、須淵、畑を経て登山口へ行くのが普通だろう。私達は出来るだけ車道を避けようとして、途中の大池のほとりから北へ向かう林道に入り、丘陵に付いている破綻の道をたどって朝光寺へ立ち寄ってみようとする。

大池のほとりから北へ延びる林道は舗装されていたが、途中から車道となり、終点は大型ゴミの集積場のようになっていた。地形図の破綻の道は消えてしまったのかと心配したが、集積場の片隅の草むらに細々と残っていた。しかしこの道もやがては新しい地蔵の林道に出してしまう。先程から見えていた、地形図にもまだ載っていないゴルフ場の周縁林道らしい。

新しい林道の出現は少々戸惑ったが、右側の雑木林に破綻の道の切り開きがあった。所どころにテープも残っている。植林帯が変わると道はますます長くなり、この道が朝光寺への参道の一つだということが分かる。ところが鹿野川を渡る橋は跡形もなく、かなり昔

三草山山頂



に荒道となっていたようだ。川の水量は大したことにはなく、難なく鹿野川を右岸に渡って鹿野からの参道と合流する。ここに「右志かの 左 池のうち」と刻まれた石の道標があり、私達が歩いて来たのは池ノ内からの参道だったことが分かる。

広い参道で墓地を過ぎると駐車場に出る。新しいトイレ横から鹿野川沿いの遊歩道をたどると「つくばねの流」で、その上が朝光寺

るようだ。

だった。豪壮な構図をくぐり抜けると国宝の本堂があり、開基は法道仙人という。多宝塔も建ち、静かな境内は静けには驚かされた。朝光寺を拝観してよいよ三草山へ向かう。境内を出て車道を東へ歩き、畑から左折して北へ向かう車道を歩く。通る車も少なくのどかな田舎風景が楽しめるだろう。やがて口池に到着。ここが登山口で手前には朝光寺トイレもあるから、ご婦人方は助かるだろう。大きな案内図や説明板があり、登山口には杖まで備えられて、三草山へ登る月例の会もあるようだ。

階段付きの広い登道は家族連れでも安心して登れる道だ。途中には休憩用のベンチもあり、東条海岸ランドや六甲連山、清水山、西光寺山などが見渡せる展望所もある。ホトトギスの声もこだまする。ウバメガシが目立つ平坦な道を歩きながら300mほどの標高差をこくまで来ると、目の前には三草山の頂が見える。ここからいったん高道を下り、鹿野からのコースの分岐を経て三草山に登り返すのだが、大して時間はかからない。

山頂には三草山神社が鎮まり、中央の壇には2等三角点と方位標がある。展望は全開とはいかないが、播磨半野を望む静かな山頂で、ベンチや三草山古戦場の由来を記した碑文もある。山頂から山口へのコース(バス便は無い)もあるが、その道はヤブ同然で、元の道を戻って鹿野コースをたどった。

しばらくは境界のない小さな登り下りだが、そのあとがこの山のハイライトだ。北側に数箇所山塊の岩壁が望め、足下に朝光池。眼下には鹿野平野が静寂と広がり、遠くには瀬戸の海がきらりと輝くという胸の



茶 通信販売
くつろぎとやすらぎのティタイムには
やっぴりお茶が ティバックが便利です。
山へお持ちください。ご来店でもどうぞ。
1. 煎茶 3g
2. ほうじ茶 3g
3. 玄米茶 4g
4. ワーロン茶 4g
全品1袋単位 郵送料別
どれも100円入
120円 2500円 5000円 8000円
250円 5000円 8000円 10000円
300円 7500円 8000円

すくようなコースである。階段が崩れた所もあるが、このコースも家族向けの道だ。大製の鳥居を過ぎるとやがて鹿野コースの登山口で、ここにも大きなコース案内板があり、のどかな風景を下久米のバス停まで歩く。
Aコースタイム 三田駅(バス5分) 朝光寺口(30分) 朝光寺(20分) 登山口(40分) 三草山(1時間10分) 鹿野登山口(20分) 下久米(バス55分) 三田駅。
地形図 2万5千 比延・天神
問い合わせ 神姫バス三田営業所
07956(3) 2000

奥高野の展望台

おぼこだけ
伯母子岳

中級コース(★★)

演田啓司

伯母子岳(1334m)は奈良県の野迫川村・十津川村の境界、高野と熊野を結ぶ旧熊野道の伯母子峠の西にそびえる。

一般的な登山ルートは大股から登り、峠を越えての頂上往復で、上り3時間少、下りは2時間半だ。伯母子峠を南に下ると五百瀬を経て十津川の風原野水池のある川津に出る。都会から遠く交通の便も良くないので、自然が残り、静かな山歩きが楽しめる。

ゴールデンウィークに日帰りで伯母子岳に出かけた。早朝、家を出た。道は空いていた。橋本から371号線に入り高野山に出た。高野龍神スカイラインを南に約5km、越前峠から東にそれて野迫川村の役場前に出て車の燃料を補給した。昨日は雪が降ったそうだが、寒

いはずだ。北股川の狭い道を大股に下る。川には釣り人が入っていた。

大股は山裾が荒蕪だった。身支度を整え、民家の間を通って山道に入ると藤やゼンマイがいつぱいいた。杉木立ちの急坂を登る。みるみる高度を稼いで寒かったのに汗が出てきた。山腹を登っていた途が驚くほど涼しい。麓の麓の麓に出た。庭に濃いピンクの石楠花が満開だ。大股から約1時間だった。

ここで朝食。猿飼谷をばさんで正面に見る山が見える。頂上の木々に霧氷が付いているのか白い。行く手に夏草の高根筋が見えてくる。寒いので休憩もそこそこに出発した。

葎小股からは登りが緩くなった。アセビの新芽が赤く燃えているようだ。途中展望の開けた所で休憩した。振り返ると高野の山々が黒く見えていた。この辺りの木々はいま新芽が出たばかりだ。約30分で水が流れている小さな沢を横切った。

槍峠に出た。両側に低い崖壁が生え、新芽の出揃ってない雑木の林が続く。公園のようだ。夏草山への分岐点で休憩。熱いコーヒーが美味かった。南面に均整のとれた伯母子岳の姿が雑木林を通して見えている。ここからの道はゆるやかな。左に伯母子岳を見ながら進む。深タワへの分岐を過ぎ、や

が立派な標柱の立つ明瞭な分岐点に着いた。

槍峠付近から伯母子岳を望む

伯母子峠を経由して登ることにした。

すぐ熊世の伯母子峠に着いた。無人の新しい遊歩道が通っている。中央が土間で左右は板張りになっていて10人以上泊まれそう。西面に十津川の谷が開け、上西から五百瀬への急坂が続く。大股が出て暖かくなってきた。熊世の生えた雑木を頂上に向かう。足元にスミレの群生があった。

頂上に着いた。頂上は尾根のような感じで、東に赤谷線が見えている。頂上の西端に出ると十津川を挟んで東山から鏡ヶ池が見え、遠く奥無山脈が続く。西には牛首の峰の向こうに護国神社と展望塔が見えている。北には夏草山や高野の山々が横たわっている。素晴らしい展望にしばしば我を忘れた。先に着いた人達が要領を乗しこんでいた。彼

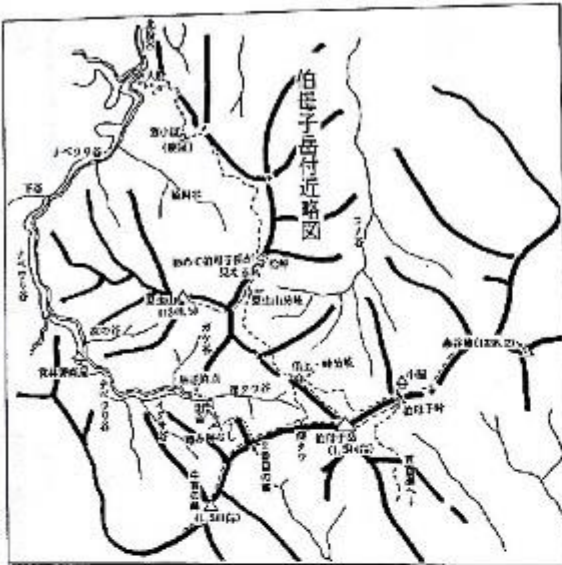


根拠に付いている。ナベワリ谷の地形も箱庭のように見えていた。

深タワから西へ2つ目の小さなコブから、見当をつけて小さな尾根を林道の終点めがけて下る。途中微かに残る踏み跡を見つけた。赤布を杖に付け、プッシュを漕ぎながら下る。途中で踏み跡を見失って左の沢に出た。

猪の足跡がたたくき付いたけもの道がある。ガラガラ石の谷を下ると深タワ谷との出合いに出た。ここで休憩。出合いを右岸に降り、下るとすぐ林道の終点に出た。主観線からは約1時間だった。振り返って見たが下って来たルートは判らなかつた。

ナベワリ谷沿いの林道をのんびり下る。菅林帯の流麗な木々が風をさらした。谷間の太陽がかけり寒くなってきた頃、大股に着いた。車で「ホテルのせ川」に立ち寄り、温泉茶汁を飲んだ。楽しいのんびりした山



歩きたった。

伯母子岳という山名は、昔、コノ谷の奥に住む乳母に、村人が隠し子の子育てを託したことからついたという。

伯母子岳は入山に時間がかかるので、マイカー以外の日帰り登山は無理だ。車は大股集落の奥の川べりに数台駐車出来る。バスは家野山駅から南海バス立里港神津まで野迫川村役場乗り換え、村営バスで大股下車。1日2本。大股には旅館もある。

▲コース・タイム▼

- 大股(1時間) 葎小屋(50分) 槍峠(10分)
- 夏草山分岐(30分) 頂上分岐(20分) 伯母子峠(15分) 伯母子岳(30分) 主観線との分岐(1時間) 深タワ谷登り(5分) 林道終点(25分) 菅林帯小屋(1時間20分) 大股
- ▲地形図▲ 2万5千: 伯母子岳・上里内・梁

▲お問い合わせ▲

- 南海電鉄バス 0736 (56) 2250
- 野迫川村営バス 07473 (7) 2101
- 野迫川タクシー 07473 (7) 2814
- 高野山タクシー 0736 (56) 2628

御嶽山がよく見える

小秀山と御前山

中級コース (★★★)
内田 嘉弘

ここに紹介する小秀山と御前山は御嶽山の展望台である。

名神自動車道から中央自動車道に入り、中津川インターで降り、国道257号線を舞台峠へ向かう。この国道の周辺に広がる御前町、經川村、坂下町、川上村、加子母村一帯を奥木曾と呼び、国道257号線の北にある奥三界山、夕森山、井出ノ小路山、小秀山、三回山向寺、寺田小屋山、御前山を阿寺山脈という。この國道を走っていると奥木曾という言葉からの暗い感じはしない。山が迫ってなく、谷間を走る道でもなく、広い斜面が続くからむしろ明るい印象を受ける。舞台峠の手前で、乙女溪谷の家内坂に従って加子母川沿いに進むと、パンガローが並び並ぶ乙女溪谷

キャンプ場に着く。小秀山二ノ谷ルートの登り口である。

二ノ谷から登るのが一般的であり、推奨できるルートである。キャンプ場(パンガロー)の中心部にある売店と小売店の間の登山口から、少々、過渡地とさえ思われる整備された登山道を、美しい渓流に点差する沢流、果上の岩壁、シヤクナゲ林などを楽しみながら進む。この時間、この奥木曾の風景を代表する落着いた大層な眼前に現われる。ここまで1時間さらにカプト岩を経て山頂まで3時間。下りは三ノ谷を経て3時間で二ノ谷登山口(一名古座からの山をみ)とあるように、二ノ谷から登るのが一般的である。

二ノ谷登山口にはパンガロー、キャンプ場があり、若い人達がゲームやパドミントンをして自然の中で青春を謳歌している。今回は山頂まで距離の短い三ノ谷から登るコースを紹介しよう。

林道を三ノ谷に向けて歩くと、カーブを過ぎた所で鉄パイプの扉があり、車止めで一般車は入れない。鉄パイプの扉の横を通り抜け、そのまま林道を登る。道端には、カエデイチゴが枝にぶら下がっているから、それを口に含みながら進むのも良い。しばらく登ると作業小屋があり、「小秀山へ」と書かれた



御嶽山 木曾町

小さな道標が立っていて、ここからが本格的な登りになる。

區根に付られたジグザクの急坂は、杉林から青木大の絶壁になる。梅雨の頃のこの辺りは、風の通りが悪く、汗は吹き出しっぱなしで、タオルを試しても拭いても濡り落ち、一番苦しい登りである。左側には三ノ谷の沢音が響いている。二ノ谷から登り、頂上へは行かずにカプト岩から下山するパーティも多しと聞く。ようやく緩線を抜けると、風通しのよいカプト岩。眼下には加子母村が広がり

展望も良い。小秀山はまだ遠か彼方だから、ここで十分休憩しておこう。

山頂を目指して樹林の緩線を歩く。いったん下り、登り返すと第一高原、第二高原、第三高原と湿地帯並の波打つ高原のやさしい緑やかな登り下りが続き、今までの行程とはがらっと雰囲気が変わり、高原の透しさが消滅できる。そのような登り下りを繰り返して、往



の波打つ高原を通過すると、2、3三角点の山頂である。御嶽山が正面に立ちはだかっている。左に雑草の茂る荒々しい地積谷を登り、右の裾野、御嶽山は極々な顔がある。(なお、三ノ谷からの登りのルートは水場がないから要注意)

前日は小秀山で御嶽山を眺めたが、今日は御前山から御嶽山を眺めよう。御前山は御嶽山の南にあり、御嶽山派の山として知られている。賞明行者が御前山に登って御嶽山開山を祈願したと伝えられ、昔は雨乞いの山であり、山頂には御前姫が祀られている。萩原町から萩原の林道を登り詰ると乙女谷で林道は終わる。ここからだと山頂まで時間短で行ける。昨日の小秀山の尾根上のルートと違って、谷沿いの道だから水場には苦労しない。

標を登るとすぐに4合目、西壁が露出していたり、セキレイが飛び回っていたり

る綺麗な流れである。日白目辺りで一息入れよう。7合目を過ぎると左岸に大きな岩壁が現われる。好風岩という。常に水の流れる音がしており、いつでも喉を潤すことができるが、その音が聞こえている間、後線はまだまだである。9合目でも水音が絶えず、9合5分でもチロチロと流れているから、このコースは水筒がいらない。ツバメオモトの群生地を過ぎるとようやく緩線を抜け、そのせせりりの後線の道は、左を巻くようにして水と磐石のある御前山山頂に出た。ここは1等三角点である。

麓に上がれば360度の展望で、無蓋岳、秘神連峰、槍ヶ岳、笠ヶ岳、双六岳、白山、能登白山と奥木曾の山々、志那山、それに前口登った小秀山、中央アルプスの山々、目の前に王冠頂上、雄母岳、剣ヶ峰、摩利支天、雄子岳を持つ御嶽山がそれぞれの個性を主張し迫力ある姿を見せていた。

皇成2年6月23〜24日歩く

ハコースタイム

- 二ノ谷登山口(20分) 三ノ谷登山口(1時間30分) カプト岩(2時間) 小秀山
- 萩原町(2時間) 女岩(1時間50分) 御前山
- 地形図 5万1加子母・御嶽山

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電鉄 叡電・京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽近鉄ファミリーハイキング、伊勢参詣道シリーズ「伊勢朝日」(四日市) 5月1日(日)集合名古屋駅乗車券10時10分、10時30分(コース)伊勢朝日駅→朝明寺→高田の一里塚→善光寺→海蔵寺→源光寺→近鉄四日市駅(約12分) 会費無料 参加自由、名古屋車乗券500円(5月) 700円
 ▽歩け歩け大会、聖徳太子物語キヤンペーン「太子誕生の地飛鳥コース」 5月3日(日)集合名古屋大原線福原駅前駅(約11時40分)ヘコース 飛鳥神宮(飛鳥)→石川池→和田池→古墳丘→初寺→魚石→飛鳥駅(約8分) 会費無料、参加自由、名古屋車乗券583円(5月) 700円
 ▽特別企画「第4回・奈良・飛鳥マラソンハイク」 5月4日(日)集合①エキスパーク→近鉄奈良駅(約10時) ②近鉄奈良駅→近鉄天理駅(約9時) ③天理駅→天理駅(約9時) ④天理駅→天理駅(約9時) ⑤天理駅→天理駅(約9時) ⑥天理駅→天理駅(約9時) ⑦天理駅→天理駅(約9時) ⑧天理駅→天理駅(約9時) ⑨天理駅→天理駅(約9時) ⑩天理駅→天理駅(約9時) ⑪天理駅→天理駅(約9時) ⑫天理駅→天理駅(約9時) ⑬天理駅→天理駅(約9時) ⑭天理駅→天理駅(約9時) ⑮天理駅→天理駅(約9時) ⑯天理駅→天理駅(約9時) ⑰天理駅→天理駅(約9時) ⑱天理駅→天理駅(約9時) ⑲天理駅→天理駅(約9時) ⑳天理駅→天理駅(約9時) ㉑天理駅→天理駅(約9時) ㉒天理駅→天理駅(約9時) ㉓天理駅→天理駅(約9時) ㉔天理駅→天理駅(約9時) ㉕天理駅→天理駅(約9時) ㉖天理駅→天理駅(約9時) ㉗天理駅→天理駅(約9時) ㉘天理駅→天理駅(約9時) ㉙天理駅→天理駅(約9時) ㉚天理駅→天理駅(約9時) ㉛天理駅→天理駅(約9時) ㉜天理駅→天理駅(約9時) ㉝天理駅→天理駅(約9時) ㉞天理駅→天理駅(約9時) ㉟天理駅→天理駅(約9時) ㊱天理駅→天理駅(約9時) ㊲天理駅→天理駅(約9時) ㊳天理駅→天理駅(約9時) ㊴天理駅→天理駅(約9時) ㊵天理駅→天理駅(約9時) ㊶天理駅→天理駅(約9時) ㊷天理駅→天理駅(約9時) ㊸天理駅→天理駅(約9時) ㊹天理駅→天理駅(約9時) ㊺天理駅→天理駅(約9時) ㊻天理駅→天理駅(約9時) ㊼天理駅→天理駅(約9時) ㊽天理駅→天理駅(約9時) ㊾天理駅→天理駅(約9時) ㊿天理駅→天理駅(約9時)

京阪

▽近鉄ファミリーハイキング「東山四季のまこと・森林浴」 5月5日(日)集合大阪線岸山駅前(約9時) 50分、10時20分(コース)東山山駅→せせらぎコース→スギ林茶内板→金剛寺→須磨河内池→藤原温泉山駅(約12分) 会費無料、参加自由、名古屋車乗券593円(5月) 700円
 ▽長春寺はたんまり「夜ぼたん」 5月5日(日)集合大阪線岸山駅前(約9時) 30分(コース)長谷寺駅→長谷寺(特別企画) 会費無料、参加自由、名古屋車乗券500円(5月) 700円
 ▽歩け歩け大会、西国巡礼の名刺・春の長春寺をたずねる「西国山公園・長春寺」 5月9日(日)集合大阪線岸山駅前(約11時)ヘコース

阪急

▽歩け歩け大会、新穂と古刹の道「高田木山尊徳寺・徳楽公園」 5月15日(日)集合名古屋線津島駅前(約10時)ヘコース 津島→徳楽公園→高田木山尊徳寺→高田木山尊徳寺(約10分) 会費無料、参加自由、名古屋車乗券500円(5月) 700円
 ▽文学散歩「天翔る道徳寺の道をたづね」 5月16日(日)集合高津原線津島駅前(約10時)ヘコース 平塚駅→徳安寺→善風→伴堂→保津→田原本願寺(約9分) 会費200円(5月) 500円(特別企画) 参加自由、名古屋車乗券500円(5月) 700円

子定期大学教員岡田洋浩氏、天王寺線06(624)0382
 ▽特別企画「しやくなげの大会」 5月23日(日)集合あべの橋駅前(約10時)ヘコース 大和上り駅→大和上り駅(約10分) 会費5750円(5月) 700円
 ▽歩け歩け大会、藤原家ゆかりの地「公館下町散策」 5月28日(日)集合名古屋線岸山駅前(約10時)ヘコース 久原駅→土佐寺→賢明寺→武家屋敷→久原城跡→千午の墓→久原(約10分) 会費無料、参加自由、名古屋車乗券500円(5月) 700円
 ▽万葉ハイキング、聖徳太子ゆかりの地をたずねてシリーズ①太子奉養の地と大和飛鳥史跡散策 6月6日(日)集合名古屋線岸山駅前(約10時)ヘコース 飛鳥駅→飛鳥朝日駅(約10分) 会費500円(5月) 700円

田金剛寺 橋守 山崎路 藤原一井 約10分 会費無料
 ▽特別企画「しやくなげの大会」 5月23日(日)集合あべの橋駅前(約10時)ヘコース 大和上り駅→大和上り駅(約10分) 会費5750円(5月) 700円
 ▽歩け歩け大会、藤原家ゆかりの地「公館下町散策」 5月28日(日)集合名古屋線岸山駅前(約10時)ヘコース 久原駅→土佐寺→賢明寺→武家屋敷→久原城跡→千午の墓→久原(約10分) 会費無料、参加自由、名古屋車乗券500円(5月) 700円
 ▽万葉ハイキング、聖徳太子ゆかりの地をたずねてシリーズ①太子奉養の地と大和飛鳥史跡散策 6月6日(日)集合名古屋線岸山駅前(約10時)ヘコース 飛鳥駅→飛鳥朝日駅(約10分) 会費500円(5月) 700円

▽近鉄ファミリーハイキング「聖徳太子と源光の遺蹟」 6月6日(日)集合大阪線岸山駅前(約10時)ヘコース 岸山山駅→源光寺→源光寺(約10分) 会費500円(5月) 700円
 ▽歩け歩け大会、西国巡礼の名刺・春の長春寺をたずねる「西国山公園・長春寺」 5月9日(日)集合大阪線岸山駅前(約11時)ヘコース

▽特別企画「しやくなげの大会」 5月23日(日)集合あべの橋駅前(約10時)ヘコース 大和上り駅→大和上り駅(約10分) 会費5750円(5月) 700円
 ▽歩け歩け大会、藤原家ゆかりの地「公館下町散策」 5月28日(日)集合名古屋線岸山駅前(約10時)ヘコース 久原駅→土佐寺→賢明寺→武家屋敷→久原城跡→千午の墓→久原(約10分) 会費無料、参加自由、名古屋車乗券500円(5月) 700円
 ▽万葉ハイキング、聖徳太子ゆかりの地をたずねてシリーズ①太子奉養の地と大和飛鳥史跡散策 6月6日(日)集合名古屋線岸山駅前(約10時)ヘコース 飛鳥駅→飛鳥朝日駅(約10分) 会費500円(5月) 700円

せせらぎ

たのしかった山行の思い出や記録。四季の自然情報など。常時投稿下さい。
1行15字詰20行以内に。

題字・小林波瑠三

1月24日、南山城の茶布庵(白丈山)から三ツ岳を歩きました。茶布庵には4等三角点が設置されています。4等三角点は、毎年全国で1200〜1300点(近畿管内では約1000点)くらい増設されています。地籍調査が完了するまで毎年増加する予定です。4等三角点は昭和28年には5960点でした。同48年には37014点、平成2年では57969点となっています。茶布庵からピークを確認しながら三ツ岳山頂に行きました。ここは昭和38年、三角点を築き始めましたが、見つけることが出来ませんでした。もう30年が過ぎたと思ふと感慨無量です。近畿測量部にお尋ねしたところ、明治22年5月に埋石されたが、亡失したため昭和45年12月に再設したと親切な返事を頂きました。納付して3等三角点と対照し、山頂での憩いを楽しんできました。(三谷品男)

二月山行報告

19日小辺路、八木峠(平谷)22日「大和湯歩会」例会。紀伊(津)追分梅林、十休の森、東明寺、矢野寺、参加14名(下山俣弘)

石川 豊史

しばしの閑森を現いて立ち上まり開き入りたりし風のさそり

清谷 崇浩

人ゴミの山をかきわけ登りては我を迎えらるうぐいすの声

南 清彦

風根道を歩き初めて三十分そこそこの日影が恋しくなる頃

山本 紳司

山道を歩いて行けば寒さとこの高きところにくぐりすの声

早石 倫大

雲はなし山は緑に萌えている鳥城山に夏に来ぬ

松永 恵一

ここが山頂ねと微笑みし君のひたいに光る爽やかな汗

大森の自然に育つトリカブトねむりも待たずつことのない

大平 寛正 遊学

息切らじ終る岩花櫻新遊

賑やかな草原を走り行く

瀬戸内の善右衛門まで急ぎ足

鉄筋の味身に染みる有馬の湯

(三谷品男)

富士山 石川文山

仙客来 雲外 嶺

龍 老 洞 中 湖

如 納 翠 煙 如 桐

白 蘭 倒 懸 東 海 天

(大原)

仙人が あそぶ道徳の 山のう

洞窟に ひそかし風の 老いゆくお

しつたのの 雲にゆらめく 朝のすがた

奥山に かかった雲の 白鳥よ。

1988年8月、富士山頂に立ち

ち、米光を拝した感動と興奮が、

私を登山の魔にしてしまいました。

去年5月の快晴の日、小旅行に

て富士の五合目にたまたみ、5年

前の印象深い富士山が再び私の眼

中にとびこんできました。

道野に広がる雲と対面する、太

古の昔から降り積もった白雪が朝

陽に輝き、逆さにした白雪が天空

サービスチェーン

どこへ行こうか
新ハイ関西サービス
チェーンへ

サービスチェーンを利用する
ときは、電話か往復ハガキで
必ず予約をして下さい。
ご予約のときに料金を確認して
下さい。

5日山△小原峰(一万五千二十
津川温泉)△山△大原(同)。
7日「地形図と歩く」①△大
原生(同)②△二休山(一古山)
とIV△東部(同)△参加20名。
9日山△高見山(同)△高見山
再調査。
13日山△家畑(同)△大和山(同)。
14日山△三ノ峰(同)△当麻町
三ノ峰(同)△参加19名。
18日山△大杉上(同)△大沼。
に登る姿はまさしく登壇富士。
日本一の山であると思えます。
(前田幸子)

2月14日、室生の塔ヶ岳に登頂
する。標原からククシーで塔ヶ野
へ。ここから林道を歩き、伊勢本
街道と分かれて、右の林道を登る。
塔ヶ岳の西の鞍部からこの林道は
下りになっているので、ここから
塔ヶ岳上を頂上に向けて急登す
る。途中、岩場があつたりしたが、
無事4等三角点のある頂上に到
着。10人がやっと立てるといふ狭
い山頂である。だが眺望は良い。

下山は尾根沿いに塔ヶ岳の支峰
へ、途中、雪があり、岩場もあり、
少し緊張する。石割峠へ下り、三
郎ヶ岳へ登り返し、高尾山を経て、
高井のバス停へ出る。高尾山から
周辺に塔ヶ岳の雄姿に接すること
ができた。(飯上義彦)

「訂正」9号35ページ「近畿の各
山100」の中で「三万五千回は新
木原山は「宮川貯水池」43番村
ヶ岳は「球」56半畑山は「黒屋」
が正しい。五條は五條が正しい。
(上田輝敏)

福島・二枚温泉
日観連 大和館

〒962-116
福島県福島市二枚温泉
F 024651-2002
024651-8411
024651-2005

秩父鉄道 クーポン券も
株又 不動の湯

〒356-8
埼玉県秩父市山田243-12
電 0494-123-1126

富士登山・富士五湖
東海自然歩道

(石割山・ハリモミ林)
三回山の麓
ペンション コットンテール

〒401-05
山梨県南都留郡山中湖村平野
電 0555-6518515

四季繰り返す乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき道りと味の館、日観連
温泉旅館 けやき山荘

〒390-15
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電 0263-9312555

汗をたつぷり流せる温泉と
雲ヶ峰のシヤブシヤブ
日本海の鮮魚と山の幸

ハイカーの宿
ナガサキロッジ

〒949-21
新潟県中頸城郡
妙高町池の平温泉
電 0255-8612261

高山の花、温泉の花
妙高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋

黒沢池ヒュッテ

〒949-21
新潟県中頸城郡妙高町
池の平温泉 ナガサキロッジ
電 0255-8612261

休憩飲食入浴も歓迎
10名以上マイクロボスで送迎

箱根仙石原温泉
福 島 館

〒250-06
神奈川県足柄下郡
箱根町仙石原139
電 0460-1419041

ハイキング・キャンプに
銘茶を淹らす

銘茶屋 あさけ茶屋

〒510-12
三重県三重郡野町
電 0593-931789

山行計画

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「全員に原素」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように入会費を申し込んでください。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費を頂くことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例金の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料(日額50円)、夜行日帰りの場合は3日になり1000円を支出します。A-1(1)保険会社と契約した傷害保険特約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。
 ①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行、②スキー使用の山行、③沢・岩水登はんを目的とした山行、④宿泊場所内の事故、(詳細は係まで)

(記入例)
 (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 期日 住所 〒 電話番号 氏名 会員番号 (会員でない方は会員外と記入) 生年月日 緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

京都北山歩き⑨
 八丁平から鎌倉山(中坂向き)
 期日 5月9日(日)日帰り
 集合 8時 出町柳駅バスターミナル 8時(集合後臨時バスにて出発)
 コース 出町柳駅→葛川小学校前→伊賀谷石保→八丁平→オグロ坂峠→鎌倉山→梅ノ木坊村→出町柳駅
 費用 約3000円(交通費)
 地図 2万5千→花背・久多
 係 昭文社「48京都北山2」
 申込み 田大群10の10村田まで
 京都北山グループ合同
 加越国境・取立山(一般向き)
 期日 5月15日(土)16日(日)
 1泊2日
 集合 京都地下鉄五条駅(京都駅から北山行きで次駅)
 北御改札口午前10時20分(貸切りバスにて出発)
 コース ①日目 京都→安曇野・北陸道→福井北に→平

日本最上位の温泉 (2400℃)
 立山・宝室平
 みくりが池温泉
 連絡先 富山市五福末広町 0764410434
 ハイキングにノースキーにノースキー 石の湯ロツジ 志賀高原 熊の湯温泉 湯平下車 026912421
 東京本社・東京近郊新宿区新宿3 12015(新光線2ビル) (休)スポーツサービス 031334110211
 黒鹿山・砂高火打山・飯橋山登山・苗名滝ハイキング 大自然が奏でる四季の詩 日曜 しゃれー黒姫 026214212527
 〒38913 長野県上水内郡信濃町黒鹿高原 026215513171
 館内より日本カモシカ毎日20頭以上と、北アの青鯨観察、北ア全体の大眺望の湯、春は山菜等 展望風呂・露天風呂 ありふすいん 満山荘 〒382 長野県上高井郡高山村山田牧場・奥山田温泉 026214212527

泉寺白山神社→勝山横倉谷(おまこの宿)(泊)
 (3)日目 宿→東山いこいの森→取立山→取立平→蓮峰堂跡→蓮峰堂山→五所ヶ原登山口→勝山温泉センター→水芭蕉(入湯)→福井北に(北陸道・名神)→京都(18時頃)
 費用 2万3千円(交通費・宿泊費・山行費用・入湯代)
 地図 2万5千→越前湯山
 係 昭文社「48京都北山2」
 申込み 〒6100101 城陽市寺田大群10の10村田まで
 京都北山グループ合同
 加越国境・取立山(一般向き)
 期日 5月15日(土)16日(日)
 1泊2日
 集合 京都地下鉄五条駅(京都駅から北山行きで次駅)
 北御改札口午前10時20分(貸切りバスにて出発)
 コース ①日目 京都→安曇野・北陸道→福井北に→平

申込み 〒6100101 城陽市寺田大群10の10村田まで
 京都北山グループ合同
 加越国境・取立山(一般向き)
 期日 5月15日(土)16日(日)
 1泊2日
 集合 京都地下鉄五条駅(京都駅から北山行きで次駅)
 北御改札口午前10時20分(貸切りバスにて出発)
 コース ①日目 京都→安曇野・北陸道→福井北に→平

あなたのふる里になりたい スキー場まで歩いて1分
 白馬ファミリアペンション
 〒399193 長野県北安曇郡白馬村八方和田野 0266117215351
 八ヶ岳南麓北城走の中心地 59年秋新築完成全館個室 木の香が新しい新築家養生水費富
 オーレン 小屋 1泊2食付き 4500円 4月末〜11月末開館
 〒391102 長野県上水内郡小川町 0266117211279
 日本産「シダ」の産地の山麓山「百名山」の登山口 種村ヶ岳女人コースもあり 温泉・名水の里
 旅館 紀の国屋基八 1泊2食付き 7000円から 〒638104 和歌山県新宮市 0747475060399
 九州の観光地・日本百名山 宮之原山(1番高い山) 歴史ある登山口
 水ノ尾 旅館 荘 歴史ある登山口からバス10分 〒809143 岡山県瀬戸町 0899741613021

8時(集合)後臨時バスに出発

コース 出町柳駅→大森山口→桑谷→東峰→桑谷→長戸谷→龍見口→出町柳駅

費用 約3,900円(交通費) 昭文社(1) 昭文社(2)

申込み 田大群10の10村口まで

巡回班を送り、東峰からの展望を楽しみます。桑谷山西峰三角点から長戸谷へは急な下りあり。雨天中止(小雨決行)

室生虎子(母)大洞山(千城崎) 期日 5月20日(日) 9時

集合 近鉄各駅駅前9時

コース 名張駅→下太田生→オオタワリ(尼ヶ岳)→谷津→大洞山雄岳→磯岳→杉平分岐→中太田生→名張駅

費用 約2,000円(名張駅起) 点交運賃

地図 2万5千倍 熊野山 昭文社 58赤日・熊野山

係 ◎村田智俊 ◎中西直行

申込み 〒610-001 城陽市 田大群10の10村口まで

伊賀富士といわれる尼ヶ岳と雄岳と雄岳の二峰からなる大洞山は共に富士の姿峰として名高い山です。雨天中止(小雨決行)

1月10日(日) 晴

京都駅7:50(集合) 8:02登り 山崎駅8:40→9:00(明覚橋登り)

山口9:30→40(茶の室)10:10→10:30(鉄塔広場)10:40→30(林道)11:20→30(水尾「松坂」)

11:45(種馬場)よりすきやき 15:45(保津橋)15:55→16:16(解散)

朝から雨、鉄塔広場の展望もガスで皆無。水尾の里でゆっくりくつろいだ。

(参加者) 高岡男 中井ひろみ 前田幸子 木村利 長比智美

松林立美 山崎善治 山崎多恵子 松下武 西村泰浩 小島フジ子

山行報告

新ハイキングクラブ開成

坂口良彦 坂口孝子 西田小百合 小室 宇 辻 和子 井上恵子

榎原康一 飯田 昇 高月ミツ子 榎本芳雄 榎本孝子 ◎中西直行

◎村田智俊 計24名

1月24日(日) 曇時々晴れ

地鉄三宮駅9:00(集合) 9:10(新神宮駅)9:15→30(赤引附)

本池10:00(地蔵谷)10:35→45(摩耶山)12:05(昼食)13:10(植谷峠)13:30(長嶺山)尖角嶺

14:15→20(鉄塔)14:45→15:00(阪急六甲駅)15:50(解散)

風もなく暖かい六甲をたのしんだ。摩耶山・長嶺山からの展望もよかつた。

(参加者) 若松 登 塚本忠次 宮坂敏彦 飯田 昇 飯田政子

榎本芳子 西村泰浩 菅沼賢隆 大井 清 中西 昭 中西和子 比呂根美子

中西正三 中村美雄 中村美子 空井 正 前田政雄 宇高水次郎

榎本芳子 榎本卓美 中井ひろみ 西崎賢雄 山科邦彦 前田幸子

区野孝雄 北川良子 小島フジ子 伊藤和夫 上村 操 西田小百合

則保保夫 辻 義弘 高月ミツ子

榎崎明子◎村田智俊◎中西直行 計35名

1月31日(日) 晴れ

近鉄信貴線藤原山駅9:00(集合) 15:00(大洞山)15:10(桑谷)15:20(桑谷)

地蔵10:45→11:00(高安山)12:00→45(信貴山)13:30→14:20(高安山)15:10(解散)

水呑地蔵でお地蔵さんの前にしゃがみ込み、水を味わった。「うまい」感涙を流すかたはお地蔵さんがしつと見つめていた。

(参加者) 新治玲子 大畑幸雄 前田政雄 三木民子 菅沼賢隆

深谷正英 赤塚千代 鎌田英在 榎沢文子 米谷慶子 次谷子美子

山内 幸 内山弘子 渡辺なよみ 前田幸子 前田弘子 松永めぐみ

山本英樹 山本純司 高野純史 向山登一 三浦宏尚 河上真也

吉本泰三 安中裕之 船原秀一郎 吉田誠人 林 秀紀 早稲川大

◎前田和康 ◎松永恵一 計31名

白米城跡 2月7日(日) 晴のち曇り

近鉄伊勢川駅9:35(西村雄輔

利用することができた。頂上からの眺めはますますだったが、西側一帯が、ゴルフ場開発のために信じない状況になっていた。船りに見学した巨大な鴨尾は圧巻だった。

(参加者) 藤田和洋 山本雅子 田原みどり 石田真由美

◎稲尾英正 (他に三重県立衛生高校山岳部員10名) 計16名

3月11日(日) 晴れ

北大路駅8:50(集合) 9:00(北大路)9:35→40(江文峠)10:20(1)47→110→40→50(寒谷峠)

11:30→40(龍野山)12:00(昼食)13:40→トボ池14:05→20(若草八幡)14:35→44(解散) 15:00(解散)

このページの山行例を消して正しい山歩きを、たのしい山仲間たちといっしょに味わいませんか。リーダー(遠征)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。あなたも新ハイキングクラブ開成

入金のすまぬ

西に大会してたのしいお仲間になりませんか。会員には毎号「新ハイキング」別冊「開成の山」(年間6号)をお届けします。

入会金 500円(パツジ代) 年会費 2500円(送料込)

本本文書 奥村泰三 高井邦造 宮井良子 早川隆雄 安田文美江